

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局/子ども家庭政策課
連絡先	582-2550

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	子育てに優しいまちづくりに向けたキャンペーン
-----	------------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	本市が子育てで日本一を実感できるまちづくりを進めていることを、広く市民にPRするとともに、行政のみならず、身近な地域においても、子育て家庭を支える環境づくりに取り組んでもらえるよう、キャンペーン(「すくすく子育てフェスタ」)を実施します。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定			「すくすく子育てフェスタ」の開催		
	これまでの進捗状況・今後の予定	H22.12.23 すくすく子育てフェスタ開催 於:西日本総合展示場		「すくすく子育てフェスタ」の開催			
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		平成22年度		平成23年度		目標
	「すくすく子育てフェスタ」来場者数		計画	6,000 人	8,400 人	年度	平成26年度
	来場者数の増加が、より多くの市民にPRすることにつながることから、活動指標として掲げました。		実績	8,400 人		内容	100,000人
			達成度	140 %	%		
			計画			年度	
			実績			内容	
		達成度	%	%			
コスト			事業費	8,178 千円	9,125 千円		
			うち一般財源	4,395 千円	4,790 千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 平成22年12月23日に「すくすく子育てフェスタ」を開催し、来場者数8,400人、参加団体数46団体となるなど大変盛況なイベントとなった。また、同月に内閣府と共催で「子育て支援を推進するリーダー育成セミナー(企業向け・NPO向け)」を開催し、地域において子育て支援活動に携わっている企業・NPO等が各約50名参加、有識者による基調講演、地元企業・NPO等による事例発表、参加者によるワークショップを実施するなど大変盛況なセミナーとなった。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	子育ての悩みや不安を感じている保護者が増加している現在、市の施策や地域における支援活動のPR、親子のふれあいの場の提供などを行うことは、「子育ての悩みや不安の解消」に向け、高い効果が期待できるとともに、本市が子育てで日本一を実感できるまちづくりを進めていることを実感してもらえる良い機会となっています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	イベント実施にあたっては競争入札を行うとともに、地域で子育て支援活動に携わっている企業・団体等の協力を得て、経済的・効率的な運営を行っています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	子育ての悩みや不安を感じている保護者が増加している現在、市の施策や地域における支援活動のPR、親子のふれあいの場の提供などを行うことは、「子育ての悩みや不安の解消」に向け、高い効果が期待できるとともに、本市が子育てで日本一を実感できるまちづくりを進めていることを実感してもらえる良い機会となっています。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	本市が子育てで日本一を実感できるまちづくりを進めていることをPRするのは、本市自身が行うべきであり、実施主体として市が適切であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	今後とも、本市が子育てで日本一を実感できるまちづくりを進めていることを、広く市民にPRするとともに、行政のみならず、身近な地域においても、子育て家庭を支える環境づくりに取り組んでもらえるよう、「すくすく子育てフェスタ」の継続実施に努めます。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	23年度においても、本市が子育てで日本一を実感できるまちづくりを進めていることを、広く市民にPRするとともに、行政のみならず、身近な地域においても、子育て家庭を支える環境づくりに取り組んでもらえるよう、「すくすく子育てフェスタ」の継続実施に努めます。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局/子ども家庭政策課
連絡先	582-2550

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	(仮称)子ども白書の発行
-----	--------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	本市が取り組んでいる子どもの健全育成や子育て支援についての成果や課題、データを盛り込んだ「(仮称)子ども白書」を発行し、幅広く市民に周知することにより、子どもの成長と子育てを地域で支える環境づくりに努めます。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応	

【目的実現の為に実施する手段】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定					
	これまでの進捗状況、今後の予定	H22.12 「子ども家庭レポート」発行					
【実施状況】	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						
	「子ども家庭レポート」の発行	計画					年度
		実績					内容
	「子ども家庭レポート」を発行することが、幅広く市民に本市の子ども家庭行政を周知することにつながるため、活動指標として掲げました。	達成度	%	%			内容
		計画					年度
		実績					内容
達成度		%	%			内容	
【コスト】		事業費			千円	千円	
		うち一般財源			千円	千円	

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成22年12月に、本市が取り組んでいる子どもの健全育成や子育て支援についての成果や課題、データを盛り込んだ「子ども家庭レポート」を発行し、幅広く市民に周知を図りました。
--------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

【評価】	【有効性】 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	「子ども家庭レポート」を作成・発行することにより、幅広く市民に、本市が取り組んでいる子どもの健全育成や子育て支援についての成果や課題、データ等を周知することができています。
	【経済性・効率性】 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	「子ども家庭レポート」を作成・発行にあたっては、発行部数や仕様を精査し、最も費用のかからない方法で作成しています。
	【適時性】 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	本市が取り組んでいる子どもの健全育成や子育て支援についての成果や課題、データ等を取りまとめ、分かりやすく市民に周知できる点で高い効果があります。
	【市の関与の必要性】 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	市が取り組んでいる子どもの健全育成や子育て支援についての成果や課題、データ等の取りまとめ等については、市のみが可能であり、実施主体としては市が適切であると考えます。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ		今後とも、幅広く市民に、本市が取り組んでいる子どもの健全育成や子育て支援についての成果や課題、データ等を周知するため、「子ども家庭レポート」の作成・発行の継続実施に努めます。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	23年度においても、幅広く市民に、本市が取り組んでいる子どもの健全育成や子育て支援についての成果や課題、データ等を周知するため、「子ども家庭レポート」の作成・発行の継続実施に努めます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	保健福祉局・総務課
連絡先	582-2403

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	人にやさしいまちづくりの推進
-----	----------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	子どもから高齢者まで誰もが住み慣れた家庭や地域で安心して快適に生活できる「人にやさしいまち」を実現するため、年齢や障害の有無などの違いを相互に理解し、尊重し合う「心のバリアフリー」を推進するための啓発事業や情報提供を行います。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安への対応</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	心のバリアフリーの推進に向けた市民啓発、情報提供等の取り組み				
	これまでの進捗状況、今後の予定	ふれあいバリアフリー事業の実施(参加人数704名) ・バリアフリーウィークの実施(関連事業13・参加延数18,488人) ・啓発パンフレット作成・配布	心のバリアフリーの推進に向けた市民啓発、情報提供等の取り組み				
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標
	バリアフリーウィーク関連事業の参加人数(延べ数)			計画	人	18,000 人	年度 平成26年度
	「心のバリアフリー」への関心を向上させる契機としての啓発機会をどの程度提供できているかを図るため、バリアフリーウィーク関連事業の参加人数を活動指標とします。			実績	18,488 人		内容 18,000人
				達成度			
				計画			年度
				実績			内容
			達成度				
コスト				事業費	1,823 千円	1,837 千円	
				うち一般財源	1,823 千円	1,837 千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 当初計画どおり、体験型啓発事業であるふれあいバリアフリー事業をはじめ、バリアフリーウィークや啓発パンフレットの配布等、各種啓発事業を実施しました。

【事業の再検証】				
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	体験型啓発事業(ふれあいバリアフリー事業)のアンケートでは、「高齢者や障害のある人の気持ちがわかった」、「やさしい心配りができるようにしていきたい」等の声が多く、効果的な事業であると考えられます。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	3	バリアフリーウィークとして期間を定め、関係団体等で行われるバリアフリー関連のイベントや啓発活動をその期間に集中させることにより、低いコストで効果的な啓発が行えるように努めています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	3	事業の目的を達成するためには、適宜事業を見直しながらも、継続して啓発事業や情報提供を行う必要があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		3	高齢者を含めた全ての人を支える地域福祉を推進するためには、年齢や障害の有無などの多様性を認め合い、支え合う福祉の風土づくりに係る取り組みを行政が積極的に行う必要があり、市が事業の実施主体となるのが適当です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	各年度の状況を踏まえ、ふれあいバリアフリー事業などの体験事業について内容の見直しを行いながら、さらに心のバリアフリーの推進を図っていきます。	

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	体験型啓発事業(ふれあいバリアフリー事業)の内容充実を図り、啓発の効果を高めていきます。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	保健福祉局・人権文化推進課
連絡先	562-5010

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	子どもの人権に関する啓発
-----	--------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	子どもの人権を尊重する意識を高めるために、人権週間記念講演会、ふれあいフェスタなどの行事や、人権啓発映画の制作・放送、人権を考えるラジオ番組「明日への伝言板」の制作・放送などを通じて、子どもの人権についての普及・啓発に努めます。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安への対応</b>

【目的実現の為に実施する手段】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	子どもの人権尊重に向けた	さまざまな啓発活動の実施				
	これまでの進捗状況、今後の予定	・人権週間記念講演会(若松・育児放棄) 350人 ・ふれあいフェスタ 8,000人	子どもの人権尊重に向けた	さまざまな啓発活動の実施				
【実施状況】	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	人権講演等参加者数		計画	平成22年度	平成23年度	目標	
				実績	6,300 人	6,400 人	年度	平成26年度
		人権尊重の理念は、人権講演会などに参加することにより高められると思われま。これらの事業を継続して実施することが、人権問題に対する正しい理解を深め、人権を自分自身の課題としてとらえられる市民が増えることにつながります。		達成度	132.5 %	%	内容	6,700人
				計画			年度	
				実績			内容	
				達成度				
【コスト】	事業費	35,162 千円	37,789 千円					
		うち一般財源	21,275 千円	24,415 千円				

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	昨年度の記念講演会(八幡東)より、300人減少しましたが、ふれあいフェスタは2,000人増加しました。記念講演会は、講師や会場の規模により増減が生じますし、ふれあいフェスタも、トークショー等の内容により、増減が生じます。
--------	-------------------------------------	--

### 【事業の再検証】

【評価】	有効性	この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	5年ごとに実施している「人権に関する意識調査」によると、人権情報に多く接する人ほど人権に対する問題意識が高いことがうかがえます。人権啓発事業を継続実施することが、人権尊重の意識を高める効果があると考えます。
	経済性・効率性	同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	3	人権啓発事業については、ノウハウを持つ民間業者を活用し、効率性を高めるように実施しています。
	適時性	今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	施策実現のために、今後も本事業を継続して実施することが必要と考えます。
	市の関与の必要性	実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」に、実施は地方公共団体の責務と規定されているため、実施主体は市が適切と考えます。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	人権情報に多く接する人ほど人権に対する問題意識が高くなることから、子どもの人権を尊重する意識を高めるためには、現状のまま進めることが適当と考えます。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	人権週間行事、ふれあいフェスタ、人権啓発映画の制作・放送、人権を考えるラジオ番組「明日への伝言板」など、人権啓発活動に引き続き取り組みます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	子育てに優しいまちづくり(地域の子育て支援)の推進
-----	---------------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	地域ぐるみで子育てを支える取り組みを進めていくため、小学校区単位を基本に、市民センター等を拠点とした子育て支援活動を促進します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安への対応</b>

【目的実現の為に実施する手段】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	事業実施計画立案 公募・採択 補助金交付・アドバイザー派遣 研修会・活動事例報告会実施	公募・採択 補助金交付・アドバイザー派遣 研修会・活動事例報告会実施	公募・採択 補助金交付・アドバイザー派遣 研修会・活動事例報告会実施	公募・採択 補助金交付・アドバイザー派遣 研修会・活動事例報告会実施	
	これまでの進捗状況、今後の予定	事業実施計画立案 公募・採択 補助金交付・アドバイザー派遣 研修会・活動事例報告会実施	公募・採択 補助金交付・アドバイザー派遣 研修会・活動事例報告会実施	公募・採択 補助金交付・アドバイザー派遣 研修会・活動事例報告会実施	公募・採択 補助金交付・アドバイザー派遣 研修会・活動事例報告会実施	公募・採択 補助金交付・アドバイザー派遣 研修会・活動事例報告会実施	
【実施状況】	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						
	支援地域数	計画	10	地域	20	地域	年度
		実績	10	地域			内容
	地域ぐるみで子育てを支えるには、各校区のまちづくり協議会を核としたネットワークによる地域での子育て支援活動の展開が望ましく、地域の実情に応じた子育て支援活動を実施する地域数を拡充していく必要があると考え、支援地域数を活動指標とします。	達成度	100	%		%	内容
		計画					年度
		実績					内容
達成度			%		%	内容	
【コスト】	事業費	4,067	千円	5,800	千円		
	うち一般財源		千円		千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 平成22年度は採択された10地域に対して、補助金交付、アドバイザーの派遣及び研修会や活動事例報告会を実施しました。当初計画どおり事業を実施しました。本事業を通じて、身近な地域で子育てを支える取り組みに支援を行い、地域社会全体で子育てを支援する環境づくりを進めています。

【事業の再検証】			
【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本年度の10採択地域では、地域の実情に応じた子育て支援活動が積極的に展開され、地域社会全体で子育てを支援する環境づくりを効果的に推進することができました。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	本年度は10地域採択枠に20地域から申請があったことから、本事業のニーズが高く、地域が主体となって積極的に子育て支援活動に取り組んでいることから、事業の縮小等は困難であると考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	「次世代育成に関する市民ニーズ調査」によると、子育ての悩みや不安を感じている保護者の割合が、5年前の調査に比べて増加していることから、今、事業を実施することにより、子育ての不安や悩みの軽減に高い効果が期待できます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	身近な地域で親子を支える仕組みをつくるとともに、子育てを地域で支えるという意識を市民に啓発する必要があることから、実施主体としては市が適切であると考えます。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	今後、本事業での支援地域数を拡充し、引き続き、身近な地域で子育てを支える取り組みに支援を行うことで、北九州市全体に地域で子育てを支援する環境づくりを、効果的かつ効率的に推進することが可能となります。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	地域ぐるみで子育てを支える仕組みをつくるため、引き続き、積極的に事業を実施します。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局/子ども家庭政策課
連絡先	582-2550

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	赤ちゃんの駅登録事業
-----	------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	乳幼児を持つ保護者が外出した際、授乳やおむつ替えができる施設を、「赤ちゃんの駅」として登録し、子育て家庭が安心して外出できる環境づくりを進めます。登録施設には、利用者が気軽に立ち寄れるよう、目印となるステッカー等を目立つ場所に掲示するなどしています。また、本事業については、公共施設だけではなく、民間事業者の協力も得るなど、地域社会全体で子育て家庭を支える環境づくりを進めます。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安への対応</b>

目的実現の為に実施する手段	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定		「赤ちゃんの駅」登録施設数増に向けた取り組みの推進 利用促進に向けたPR					
	これまでの進捗状況・今後の予定	登録施設数314か所(4/1) 登録施設数326か所(3/31) (今年度12か所増)	「赤ちゃんの駅」登録施設数増に向けた取り組みの推進 利用促進に向けたPR						
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
	「赤ちゃんの駅」登録施設数					計画	300 か所	330 か所	年度 平成26年度
	「赤ちゃんの駅」登録施設数が増加することが、乳幼児を持つ保護者の利便性の向上につながるため、活動指標に掲げました。					実績	326 か所		内容 400か所
						達成度	108.7 %	%	
						計画			年度
						実績			内容
					達成度	%	%		
コスト						事業費	2,774 千円	2,775 千円	
						うち一般財源	1,439 千円	2,775 千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 「赤ちゃんの駅」登録施設数は、当初計画を達成したため、目標値数(登録施設数)を当初300施設から400施設に変更するもの。また、「赤ちゃんの駅」の市民へのPRについては、親子ふれあいルームでのPRチラシと啓発グッズの配布、すくすく子育てフェスタ会場における臨時赤ちゃんの駅設置、子育てしやすいまちづくりPR隊による街頭啓発などを行った。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	市内により多くの「赤ちゃんの駅」登録施設が存在することにより、安心して子どもを生み育てやすい生活環境づくりが促進されています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	「赤ちゃんの駅」登録施設の拡充にあたっては、公共・民間施設を問わず、既存の施設を有効活用することとしており、経済的・効率的な登録施設の拡充に努めています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	市内により多くの「赤ちゃんの駅」登録施設が存在することにより、安心して子どもを生み育てやすい生活環境づくりが促進されます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	子育てしやすい環境づくりは市が主体で行うもので、市が積極的に関与する必要があります。また、「赤ちゃんの駅」登録施設の拡充のため、民間事業者の無償協力を得るには、実施主体としては市が適切です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	後とも、登録施設数の増に向けた民間事業者への協力依頼を行うとともに、「赤ちゃんの駅」の認知度向上や利用促進に向けたPR活動を行い、乳幼児を持つ保護者の利便性向上に努めます。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	今後とも、登録施設数の増に向けた民間事業者への協力依頼を行うとともに、「赤ちゃんの駅」の認知度向上や利用促進に向けたPR活動を行い、乳幼児を持つ保護者の利便性向上に努めます。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	親子ふれあいルーム整備事業
-----	---------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	乳幼児を持つ保護者の子育てへの不安を軽減するため、親子が気軽に集い、交流、情報交換、育児相談等ができるスペースを既存の公共施設を活用しながら、区役所や児童館などに整備し運営します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安への対応</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	整備:2箇所整備(小倉北、八幡西区役所) 運営:親子ふれあいルームの運営	運営:親子ふれあいルームの運営	運営:親子ふれあいルームの運営	運営:親子ふれあいルームの運営	
	これまでの進捗状況、今後の予定	整備:2箇所整備(小倉北、八幡西区役所) 運営:親子ふれあいルームの運営	運営:親子ふれあいルームの運営	運営:親子ふれあいルームの運営	運営:親子ふれあいルームの運営	運営:親子ふれあいルームの運営	
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						
	親子ふれあいルーム整備箇所数	計画			平成22年度	平成23年度	目標
		2	箇所		年度	平成26年度	
	親子ふれあいルームを整備することで、親子が気軽に集い、交流、情報交換、育児相談等ができるスペースを確保し、子育ての不安や悩みを軽減する環境づくりを推進するため、整備箇所数を成果指標とします。	実績			2	箇所	内容
		達成度	100	%	%		区役所等に7箇所児童館に10箇所
	親子ふれあいルーム利用者数(保護者)	計画					年度
	実績			5,346	人	16,007	人
親子ふれあいルームを利用することで、子育ての不安や悩みを軽減できると考えられるため、利用者数を活動指標とします。	達成度			%	%	%	内容
コスト	事業費	51,928	千円	33,698	千円		
	うち一般財源	37,929	千円		千円		

## 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成21年度に6箇所整備を行い、これまでに通算15箇所の親子ふれあいルームを整備し、ハートフル子どもプラン(新新子どもプラン拡充版)の計画を達成しました。 区役所等5ヶ所(門司、小倉南、若松、八幡東、戸畑区役所) 児童館 10ヶ所(風師、中島、新政町、葛原、徳力、槻田、楠橋、小嶺、夜宮、高須児童館) 平成22年度に2箇所整備を行い、これまでに通算17箇所の親子ふれあいルームを整備し、元気発進子どもプランの計画を達成しました。 区役所等7ヶ所(全区) 児童館 10ヶ所
------	-------------------------------------	---

## 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	親子ふれあいルームの整備が拡充するに従い、利用者数も増加していることから、乳幼児を持つ親が身近な地域で気軽に集い、情報交換や相談ができる場を整備することは、子育ての不安や悩みを軽減する環境づくりに非常に効果があったと考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	整備については、既存の公共施設を活用しています。運営については、公募により選考を行い、子育て支援活動の実績がある団体やNPOに委託しています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	「次世代育成に関する市民ニーズ調査」によると、子育ての悩みや不安を感じている保護者の割合が、5年前の調査に比べて増加していることから、今、事業を実施することにより、子育ての不安や悩みの軽減に高い効果が期待できます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	本事業は、児童福祉法により「地域子育て支援事業」に規定されているものであり、実施主体は市町村とされています。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	親子が気軽に集い、交流、情報交換、育児相談ができる場である「親子ふれあいルーム」を今後も運営することで、子育て中の保護者の悩みや不安を緩和に努めます。 親子ふれあいルームの質の向上や利用促進を図るため、各区の運営スタッフへの研修や情報発信(PRチラシ)を実施していきたいと考えています。

## 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	平成22年度で施設整備は完了したことから、今後は親子ふれあいルームの運営の充実を図ります。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・子ども家庭政策課
連絡先	582-2550

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	「わらべの日」(子育て支援の日)事業
-----	--------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	中学生以下の子どもを連れた家族や団体等が、協力施設・店舗を利用すると、割引やサービスを受けることができる「わらべの日」(毎月第二日曜日)を設け、子どもと親がふれあう機会を拡大し、家庭・企業・地域全体が協働で子育てを支援する意識を広く浸透させます。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定						
	事業目的達成に向け、更なる事業普及に積極的に努める (協力施設、店舗、企業への啓発活動及び利用者増加に向けた多種多様な広報活動等の推進)							
	これまでの進捗状況、今後の予定	協力店舗・施設数 412						
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						計画変更理由	
	協力店舗・施設数	計画			平成22年度	平成23年度	目標	
	「協力店舗・施設数」の増加が、子どもと親がふれあう機会の増加及び子育てを支援する意識の浸透の一助となることから、活動指標として掲げました。	実績	412					年度
		達成度	%	%				内容
		計画						年度
		実績						内容
	達成度	%	%					
コスト	事業費				千円	千円		
	うち一般財源				千円	千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 指定管理者による、積極的な利用者への広報活動や協力施設、店舗、企業への啓発活動により、順調に進捗しています。

【事業の再検証】				
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があつたのか。	4	市内に、より多くの「わらべの日」協力店舗・施設が存在することにより、地域における子育て支援の輪が広がるとともに、親子がふれあう機会の増加にも繋がり、子育ての悩みや不安解消の一助として有効です。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	4	「指定管理者制度」を導入し、経済的・効率的な運営を行っています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4	子育ての悩みや不安を感じている保護者が増加している現在、「子育ての悩みや不安の解消」に向け、高い効果が期待できます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	「わらべの日」協力店舗・施設数の増加には、民間事業者の協力が必要であり、民間事業者の協力を得るには、実施主体としては市が適切であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	今後とも事業の目的達成に向け、積極的な取り組みやPR活動等に努めます。	

【次年度計画】	
目的実現のために23年度に実施すること	平成23年度も事業目的達成に向け、積極的な取り組みやPR活動等を実施します。
	前年度に評価した今後の方向性



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	地域でつくる子育て応援事業
-----	---------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	区の推進協議会やまちづくり協議会等と連携し、子育てに関するボランティア活動や地域特性を活かした子育て支援活動を支援します。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応	

【手】	目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
			当初の予定	事業の継続実施	事業の継続実施	事業の継続実施	事業の継続実施		事業の継続実施	
			これまでの進捗状況、今後の予定	事業の継続実施	事業の継続実施	事業の継続実施	事業の継続実施		事業の継続実施	
【目】	実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
			計画					年度		
			実績					内容		
			達成度	%	%					
			計画					年度		
			実績					内容		
	達成度	%	%							
【金】	コスト		事業費	1,724 千円	2,713 千円					
			うち一般財源	1,251 千円	2,273 千円					

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	各区の状況に応じて、子育て支援に関する会議や勉強会等を実施しています。
--------	-------------------------------------	-------------------------------------

### 【事業の再検証】

【評価】	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4 : 高い 3 : やや高い 2 : やや低い 1 : 低い	4	区の独自性を活かすことで、市民に身近な活動内容となっていることから、効果は高いです。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	関係機関と連携した活動を中心に実施しており、地域に広がっています。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	子育て支援の活動が多方面に広がっていることから、関係機関と連携を図ることが重要です。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	地域との関わりを促し、市としての情報を提供するために市の関与が必要です。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	地域における子育て支援活動や支援者が多方面に広がっていることから、今後も関係機関と連携し、子育て支援の活動を支援します。	

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	今後も関係機関との連携を強化し、各区の独自性を活かした活動を進めていきます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	育児サークル・フリースペースへの支援
-----	--------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	未就学児の親同士が交流を通じて、自主的な活動を行えるよう育児サークルを支援します。また、子ども連れでも自由に参加・利用できるフリースペースの活動を支援するとともに、地域で子育てをしやすい、システムづくり、仲間づくりを支援します。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定		自主的な活動を行う育児サークルの支援	フリースペースの活動を支援				
		これまでの進捗状況、今後の予定	育児サークルに、遊具・教材等を購入する費用を補助	自主的な活動を行う育児サークルの支援	フリースペースの活動を支援				
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標		
	子育てに関わる団体等への補助件数(申請件数)				計画	100 件	100 件	年度	
	育児サークルや子育て支援者グループなどの「子育てに関わる団体」へ補助を行い、活動支援することにより、育児サークルの自主的活動や地域で行われる子育て支援活動を促し、子育ての不安や悩みを軽減する環境づくりを推進するため、補助件数を活動指標とします。				実績	59 件		内容	
					達成度	59 %	%		
					計画			年度	
					実績			内容	
				達成度	%	%			
コスト					事業費	1,109 千円	3,000 千円		
					うち一般財源	千円	千円		

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	育児サークルの活動支援として、遊具等を購入する費用の補助を行いました。申請件数:59サークル。
------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	子育ての悩みや不安を緩和するよう、乳幼児を持つ親が身近な地域で気軽に集い、情報交換や相談ができる場を整備することは、有効です。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	事業実施に必要な経費は、外部資金(安心子ども基金)を活用しています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	子育ての悩みや不安を感じている保護者が増加している現在、「子育ての悩みや不安の解消」に向け、効果が期待できます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	地域において自主的に活動している育児サークル等への支援が必要であることから、実施主体としては市が適切であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	地域での自主的な活動や身近な地域での交流の場(フリースペース)に支援を行います。	

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	地域での自主的な活動に対して支援を行います。 身近な地域での交流の場(フリースペース)について調査を行い、その情報を発信し利用の促進を図ります。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	総務企画局国際政策課
連絡先	582-2146

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	日本語と子育て教室
-----	-----------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	近年、本市で著しく増加しているいわゆるニューカマーと呼ばれる外国人市民の中には、日本語や日本の生活習慣の知識が十分でない方も多く含まれています。そのような外国人市民に対して、多言語による生活情報や日本語教室の充実を図るとともに、相談体制の強化を図ります。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安への対応</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	日本語と子育て教室の実施 年間45回程度				
これまでの進捗状況、今後の予定		H22 46回実施 参加者数 延べ459人	日本語と子育て教室の実施 年間45回程度				
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						
	日本語と子育て教室の参加者数	計画	375	人	400	人	年度 平成26年度
	子育て中のため日本語教室等に通えない外国人市民について、託児付きで「日本語」と「子育て」の両方が学べる講座を開催しています。言葉の問題と子育ての両方で孤立しがちな外国人市民に対する生活支援であり、当該施策推進のための主要事業の一つです。	実績	459	人			内容 延べ400人以上
		達成度	122.4	%		%	
	日本語と子育て教室の開催数	計画	-		-		年度
	子育て中のため日本語教室等に通えない外国人市民について、託児付きで「日本語」と「子育て」の両方が学べる講座を開催しています。言葉の問題と子育ての両方で孤立しがちな外国人市民に対する生活支援であり、当該施策推進のための主要事業の一つです。	実績	46	回			内容
	達成度		%		%		
コスト	事業費	555	千円	865	千円		
	うち一般財源	555	千円	865	千円		

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	予定通り事業を実施し、参加者数も増加しています。
------	-------------------------------------	--------------------------

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	外国人が日本で生活していくには日本語でのコミュニケーションが必要不可欠なため、生活に必要な日本語習得に有効です。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	本事業の実施についてはボランティアの講師を活用し、経済的かつ効率的に運営しています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	日本語でのコミュニケーションが不自由なまま来日する外国人が増加しており、現時点での支援が必要です。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	日本語習得のみならず、社会との関係性を持たない外国人妻同士の知り合う機会づくりや子育て支援を実施する必要があります。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア	社会との関係を持たずに家庭で孤立しがちな外国人妻等を支援するため、本事業を継続実施します。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	会場の拡充を実施し、受入人数及び参加者の増加を目指します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	-------------------------------	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	保健福祉局-いのちをつなぐネットワーク推進課
連絡先	582-2060

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	保健・医療・福祉・地域連携システム推進事業
-----	-----------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	保健・医療・福祉関係者、地域住民や地域団体、民間事業者、学校、行政機関等で構成される区保健・医療・福祉・地域推進協議会(以下、推進協)が、各区の特性を生かしながら、子どもから高齢者までの誰もが住みなれた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めるため、地域社会全体で支援を必要とする方をお互いに支えあう「地域福祉ネットワークづくり」に取り組んでおり、その活動に対して補助金を交付しています。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	各区推進協への補助金の交付				
	これまでの進捗状況、今後の予定	各区推進協への補助金の交付					
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		平成22年度	平成23年度	目標		
	区を中心とした保健・医療・福祉・地域の関係機関・団体の連携強化	計画			年度		
	・各区推進協及び専門部会の開催 ・地域ケア研究会、各種ネットワーク会議等の開催	実績			内容		
		達成度					
	広報・啓発活動の展開	計画			年度		
	・健康まつり、ウォーキング等のイベントを通じた啓発活動 ・広報誌、ホームページ等による広報活動	実績			内容		
達成度							
コスト	事業費	16,723 千円	17,679 千円				
	うち一般財源	10,451 千円	11,407 千円				

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	各区において推進協及びその専門部会を開催し、区レベルの保健・医療・福祉・地域団体や関係者の連携を推進したほか、地域ケア研究会、各種ネットワーク会議等を開催し、地域ニーズの把握と支援を行っています。また、健康まつり、ウォーキング等のイベントを通じた啓発活動や広報誌、ホームページ等による広報活動を行い、関連情報の発信に努めています。
------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	平成22年2月22日に実施した推進協意見交換会においても、各区推進協の様々な取り組みや地域からの評価の声が報告されており、一定の効果을あげているものと考えます。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	3	区によって活動に差があり、啓発イベント等が活動の中心としてパターン化している区もあります。新しいニーズ等にも対応できるよう、事務局の専門性強化を委員から要望されており、部会等を保健福祉部門が担当することで、より効率的で高い効果が得られるのではないかと考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	3	平成5年以降、様々な地域課題に取り組むことにより、既に地域に根付いた活動になっている点や各構成団体と構築してきた信頼関係を今後も密にしていく必要がある事からも、継続して取り組むべき事業であると考えます。	
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	3	地域社会全体で、地域の様々な問題を解決することを目的に、行政、医療関係者、地域団体、福祉関係者が一体となって「地域福祉のネットワーク」づくりに取り組んでいることから、市の関与は必須であると考えます。	
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	平成23年度より、区の事務局を、昨年までのまちづくり推進課から保健福祉課へ変更しました。今後、福祉ニーズの増加が予想される中で、保健福祉分野の強化を図るとともに、引き続き、保健・医療・福祉・地域それぞれの分野での連携促進は重要と考えています。	

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	連携の強化や活動の展開について、各区推進協と意見交換等しながら検討します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---------------------------------------	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	教育委員会生涯学習課
連絡先	582 - 2385

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	学校支援地域本部事業
-----	------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	教員が子どもと向き合う時間の確保と地域の教育力の向上を図るため、学校単位に「学校支援地域本部」を設置し、地域の協力のもと学校の教育活動を支援する体制づくりを推進します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安への対応</b>

【目的実現の為に実施する手段】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	モデル実施校 7校	→	モデル実施の成果を踏まえて実施予定			
	これまでの進捗状況・今後の予定	モデル実施校 7校	→	モデル実施の成果を踏まえて実施予定			→	
【実施状況】	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		平成22年度		平成23年度		目標	
	モデル実施校数		計画	7 校	7 校	年度	平成26年度	
	「学校支援地域本部」を設置しているモデル校において、地域全体で学校を支援する体制づくりを推進しています。		実績	7 校		内容		
			達成度	100 %	%			
			計画			内容		
			実績					
		達成度	%	%				
【コスト】		事業費	5,008 千円	10,448 千円				
		うち一般財源	1,817 千円	6,966 千円				

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 当初計画通り、7校でモデル事業を実施しました。各学校に配置された地域コーディネーターが、学校の要望に応じた学校支援ボランティアを発掘・確保し、学習支援活動、校内環境整備、子どもの安全確保、部活動指導、学校行事の運営支援等の様々な教育活動に対して、地域ぐるみで支援を行いました。また、ボランティア自身の生きがいづくりにもつながりました。

【事業の再検証】				
【評価】	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	実施校から「地域や保護者との信頼関係が構築された」、「子どもたちにきめ細かな支援が行えるようになった」などの声が寄せられていることから、有効性は高いと考えます。	
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い	3	国の委託事業として実施したことや、スクールヘルパー制度を活用してボランティアの方々から協力・支援を得られたことなどから、低いコストで効率的に事業を実施できたと考えます。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2: やや低い 1: 低い	4	本事業の実施により、学校・地域・保護者間の信頼関係が構築されていることから、施策実現に向けての高い効果が得られると期待されるため、今後も本事業を実施していく必要があると考えます。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	現在、モデル事業として実施しており、今後事業を軌道にのせるためにも、当面の間実施主体は市が適当であると考えます。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了	ア	地域が学校の教育活動を支援する体制づくりをさらに推進するため、「学校・地域・保護者からみた事業成果や課題」、「継続実施希望の有無」、「未実施校区での実施希望」、「国の方向性」等を踏まえた上で、事業の拡充等を検討していきます。	

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	22年度に引き続き、7校でモデル事業を実施し、教員が子どもと向き合う時間の確保と地域の教育力の向上を図ります。また、実施成果を検証し、事業の拡充等を検討します。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	教育委員会生涯学習課
連絡先	582-2385

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	子育てネットワークの充実
-----	--------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	保護者が子育てに対する戸惑いや不安を解決し、子育ての負担を少しでも軽くできるよう、地域の大人を一定の研修の後に子育てサポーターとして登録し、地域による子育てを支援するものです。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	子育てサポーター登録者数 970人	子育てサポーター登録者数 1,000人					
	これまでの進捗状況・今後の予定	子育てサポーター登録者数 950人	子育てサポーター登録者数 1,000人						
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
	子育てサポーター登録者数					計画	970 人	1,000 人	年度 平成26年度
	子育てサポーターを養成し、地域ぐるみの子育てを支援します。市民センターにおける子どもの見守りや、保健師が行う子育て相談での支援活動等を行うために、全市民センターに各8名程度の子育てサポーター配置を目指します。					実績	950 人		内容 1,000人
						達成度	97.9 %	%	
						計画			年度
						実績			内容
コスト						事業費	1,002 千円	788 千円	
						うち一般財源	1,002 千円	788 千円	

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成22年度は、新たに165名の子育てサポーターを養成し、登録者数は年々増加しています。12月には、子育てサポーターの全市的な交流会を実施して意見交換や情報交換を行ったことにより、活動の充実につなげました。また、子育てサポーターリーダーを新たに12名養成しました。
------	-------------------------------------	--

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	子育てサポーターは、市民センターを拠点として、フリースペース等での子どもの見守り、育児サークルへの参画、保護者からの相談に応じるなどの子育て支援活動をしており、保護者の子育ての不安軽減に寄与しています。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い	4	子育てを経験された方等、豊富な経験を持つ方を子育てサポーターとして登録し、市民センターの方針に基づき、ボランティアで活動しています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2: やや低い 1: 低い	4	少子化、核家族化、人間関係の希薄化等により、子育て中の親が子育てに対する戸惑いや不安を感じることもあるため、それを少しでも軽減できるよう、地域ぐるみで子育ての支援を行う子育てサポーターの育成は必要と考えています。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		3	子育て日本一を実感できるようにするためには、地域におけるきめ細かい支援が必要であり、そのための拠点である市民センターで活動する子育てサポーターの養成、育成を市がしっかりと支え、活動の充実を図ることが必要です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	子ども家庭局との連携を図り、子育てサポーターの活動場所や活動機会を充実させていくとともに、子育てサポーターの認知度を高めるよう努めます。また、子育てサポーター及び子育てサポーターリーダーの新規養成も継続して行っていきます。	

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	子育てサポーター及び子育てサポーターリーダーの新規養成を継続して行います。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---------------------------------------	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・子ども家庭政策課
連絡先	582-2550

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	「子どもの館」・「子育てふれあい交流プラザ」の運営
-----	---------------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	子どもの豊かな感性や創造力を育み、子育て中の保護者が持つ負担や不安感を解消するための総合的な子育て支援拠点施設として、「子どもの館」、「子育てふれあい交流プラザ」の運営を行います。(両施設ともに、「指定管理者」が運営)
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安への対応</b>

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	施設の設置目的達成に向けた積極的な取り組み及び利用者の満足度の高い施設としての取り組みの推進						
		これまでの進捗状況、今後の予定	年間利用者数 ・子どもの館 662,969人 ・交流プラザ 415,465人	施設の設置目的達成に向けた積極的な取り組み及び利用者の満足度の高い施設としての取り組みの推進					
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標		
	「子どもの館」年間入場者数				計画		年度 平成25年度		
	「年間入場者数」の増加が、利用者の満足度の高い魅力的施設であることから、活動指標として掲げました。				実績	662,969 人	内容 440,000人		
					達成度	%		%	
	「子育てふれあい交流プラザ」年間入場者数				計画		年度 平成25年度		
	「年間入場者数」の増加が、利用者の満足度の高い魅力的施設であることから、活動指標として掲げました。				実績	415,465 人	内容 416,000人		
				達成度	%	%			
コスト					事業費	266,620 千円	269,410 千円		
					うち一般財源	千円	千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 指定管理者による、積極的な事業展開およびPR等により、順調に入場者数も推移しています。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	多くの子育て世代の市民の方々にご来場いただき、「子育ての悩みや不安の解消」に向けた「子育て支援拠点施設」として、好評をいただいています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	「指定管理者制度」を導入し、経済的・効率的な運営を行っています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	子育ての悩みや不安を感じている保護者が増加している現在、「子育ての悩みや不安の解消」に向け、高い効果が期待できます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	本市における東西の総合的な「子育て支援拠点施設」として位置づけており、実施主体としては市が適切であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	今後とも施設の設置目的達成に向けた積極的な取り組みやPR活動等を通し、魅力的な施設づくりを目指します。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	利用促進に向け、積極的な事業展開、PR等を行い、満足度の高い施設を目指します。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	親子通園クラスの設置
-----	------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	直営保育所へ新たに「親子通園クラス」を設置し、発達の気になる子どもを保護者とともに受け入れ、保育所での遊びや体験、相談を通じて継続した支援を行います。また、直営保育所と保健・医療・福祉・教育の関係機関が連携しながら、児童の保育所、幼稚園などへの移行を支援します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安の対応</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	親子通園クラスの計画的な設置					実施箇所数 7箇所
	これまでの進捗状況、今後の予定	1施設 (八幡西区黒崎保育所)	小倉北区東篠崎保育所で実施予定	親子通園クラスの計画的な設置		実施箇所数 7箇所		
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標	
	親子通園クラスの設置				計画	1 施設	2 施設	年度 平成26年度
	親子通園クラスを設置し、発達に不安のある児童や育児に不安のある保護者を受け入れ、遊びや相談等を通して、保育所や幼稚園等への移行支援を行います。				実績	1 施設		内容 7箇所
					達成度	100 %	%	
					計画			年度
					実績			内容
				達成度	%	%		
コスト					事業費	1,290 千円	3,158 千円	
					うち一般財源	1,030 千円	1,238 千円	

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	八幡西区黒崎保育所において親子通園クラスを設置し、遊びの提供や保護者との懇談会を行いました。発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対し、継続した関わりの中で、子育ての楽しさや子どもの成長の喜びを伝えるなどの支援を行いました。12組(延べ65組)の親子が利用しました。
------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4 : 高い 3 : やや高い 2 : やや低い 1 : 低い	4	現在通園中の世帯に対して実施したアンケートで、利用者の満足度は100%でした。また次年度の進路が決定している世帯も67%を超え、移行支援としての成果も出ています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	利用料として、一世帯あたり月に4,000円を徴収しています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	現在の社会状況において、支援の必要な子どもと保護者への対応を考えた子育て支援としてたいへん重要であると考えられます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	直営保育所の施設と人材を活かした子育て支援であり、全国的にも例のない事業です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ 市全域へのサービス実施のためにも、平成23年7月東部地区で事業を開始していきます。発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者を親子で受け入れ、保育所での親子遊びや行事参加などの体験、相談を通じて、保育所や幼稚園等への移行支援を行います。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	東部地区の東篠崎保育所で、親子通園クラス事業を開始します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	-------------------------------	----------------



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	地域子育て支援センター事業
-----	---------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	育児相談や情報提供、親同士の交流などの場を設け、子育て中の親の子育て支援を図ります。
	その結果、実現を目指す施策名	子育ての悩みや不安の対応

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	地域子育て支援センターを実施する保育所の施設数の現状維持(8箇所)					
	これまでの進捗状況、今後の予定	8箇所	地域子育て支援センターを実施する保育所の施設数8箇所の現状維持			平成26年度 現状維持		
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)					平成22年度	平成23年度	目標
	実施箇所数				計画	8 箇所	8 箇所	年度 平成26年度
	実施箇所数について、現状の実施体制の維持に努めます。				実績	8 箇所		内容 現状維持 (8箇所)
					達成度	100 %	%	内容
				計画				年度
				実績				内容
			達成度	%	%		内容	
コスト				事業費	65,506 千円	69,369 千円		
				うち一般財源	35,118 千円	37,605 千円		

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	地域の子育て家庭などへの支援のため、保育所内のフリースペース活動では担当保育士と親子遊びをしたり、親同士の交流の場を設けたり、育児相談を受けたりしました。また在宅家庭の電話相談や保育所来所相談にも応じ、子育てのアドバイスや健康情報を提供しました。重点的に支援が必要な家庭には、保健師や子ども総合センターなどの関係機関と連携して、課題解決を図りました。各地域の市民センターにおいても、保育所から出向いて、育児講座を開催したり、育児サークルの立ち上げや交流ができるようにサポートしました。
------	-------------------------------------	--

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	育児相談や育児アドバイス・遊びの紹介などの子育て情報提供、子育て親子が交流する場の提供など、地域の子育て支援の中核となっています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	限られた補助金額の中で、配置保育士2名分の給与を支出すると同時に、工夫して各園センターでパンフレット・手引き等を作成するほか、離乳食講座、手作り教室など各種交流行事を開催しており、効率性は高い。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	フリースペースの利用者は年間に延べ28,000人を越えており、地域の子育て世帯に対する支援の場がなくなることで、支援サービスが低下します。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	地域の子育て支援の中核的施設であり、市が総合的に実施する必要があります。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	子育て世代のニーズに対応するため、現状の箇所数を維持し、関係機関とネットワークを構築して育児相談等の子育て家庭への支援や地域の育児サークル等への支援を実施します。また各施設間の連携や情報交換を行い、支援センターの機能強化を図ります。	

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	現状の実施体制を維持します。各施設が意見交換を行う連絡会を開催します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	-------------------------------------	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	子育て支援員の養成・配置(保育所)
-----	-------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	北九州市社会福祉研修所の研修の充実を図り、保育所の保育士を子育てに関する相談や育児サークルの支援等に対応できる「子育て支援員」として養成します。「子育て支援員」は、各区役所や市民センター等と連携しながら、地域に根差す保育所の子育て家庭支援の中心的な役割を担います。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安の対応</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	全所1名ずつ子育て支援員の養成	子育て支援員の増員			
	これまでの進捗状況・今後の予定	子育て支援員の増員数 40名 子育て支援員の配置保育所数 157施設(全保育所)	子育て支援員の増員				
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標
	子育て支援員の増員	計画	40 名		年度		
	専門性を活かし、きめ細やかな子育て相談等に対応できるよう、子育て支援員の養成を継続します。	実績	40 名		内容		
	子育て支援員の配置保育所数	達成度	100 %	%	年度	平成26年度	
	保育所の保育士を子育てに関する相談や育児サークルの支援等に対応できる「子育て支援員」として養成し、保育所に配置し、育児に悩む保護者を支援できるよう、活動指標としてあげました。	計画	157 箇所	158 箇所	内容	現状維持(全保育所)	
		実績	157 箇所	%			
コスト	達成度	100 %	%				
	事業費	677 千円	553 千円				
	うち一般財源	677 千円	千円				

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 子育て支援指導者の育成を計画的に行い、「子育て支援員養成講座」を6日間実施しました。子育て支援の推進及び保育の質の向上を図ることができました。

【事業の再検証】				
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	子育てに関する相談や育児サークルの支援等に対応できる「子育て支援員」は子育ての悩みや不安をもつ保護者に適切なアドバイスや援助が期待でき、有効性が高いと思います。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	4	社会福祉研修所が主催した研修を活用して受講することで低コストに抑えています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4	子育ての悩みや不安を感じている保護者が増加している現在、「子育ての悩みや不安の解消」に向け、高い効果が期待できます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	保育士の質の向上は、保育所の質の向上であり、実施主体として市が適当であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	今後とも、子育て支援の役割を担う保育士養成のため、研修を継続実施します。	

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	引き続き今年度も子育て支援の役割を担う保育士養成のため、研修を実施します。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	保育所における地域活動事業
-----	---------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	保育所における世代間交流事業や、異年齢児交流事業など幅広い活動を通して、子どもたちの社会性を培います。また、保育所が持つ専門的知識やノウハウを活かし、子育て相談や育児講座の開催および子育て情報の提供を行うなど、地域の子育ての核として子育て家庭への支援を拡充します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安の対応</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	すべての保育所で地域活動事業の実施				
	これまでの進捗状況、今後の予定	全保育所157施設で実施	すべての保育所で地域活動事業の実施				
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		平成22年度		平成23年度		目標
	地域活動事業を実施する保育所数		計画	157 箇所	158 箇所	年度	
	全保育所で世代間交流や子育て相談、育児講座などを実施して子育て支援を行う。		実績	157 箇所		内容	現状維持 (すべての保育所)
			達成度	100 %	%	内容	
			計画			年度	
			実績			内容	
		達成度	%	%	内容		
コスト			事業費	33,263 千円	36,738 千円		
			うち一般財源	13,338 千円	千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	各保育所で地域の年長者と昔遊びや、縁日ごっこなどの世代間交流や、校区小学校と連携を持つ異年齢交流を行いました。また、保護者対象の子育て相談や育児講座はもとより、在宅親子への支援として、子育て広場の開催や電話相談などを実施しました。
-------------------	------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4 未就園児親子が身近な保育所で、子育てのアドバイスを受けたり、同年齢の保育園児と遊んだりすることで、育児の悩みや不安が緩和され保護者に喜ばれています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4 今ある保育所の機能を生かして事業を行うので低いコストで行えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4 子育ての悩みや不安を感じている保護者が増加している現在、「子育ての悩みや不安の解消」に向け、高い効果が期待できます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすことはできないのか。		4 地域住民の理解を深め、開かれた保育所づくりを推進しています。市の大切な社会資源として責任を持って子育て支援をしています。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ 今後とも保育所の機能を生かして地域の子育て支援を充実させ、開かれた保育所づくりを進めます。

【次年度計画】		前年度に評価した今後の方向性
目的実現のために23年度に実施すること	子どもたちの社会性を培うため、保育所においては世代間交流事業や異年齢児交流事業など、幅広い活動を実施します。また、保育所が持つ専門的知識やノウハウを活かして、子育て相談や育児講座、情報の提供を行います。	

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	施設・園庭の地域への開放
-----	--------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	地域住民の理解を深め、開かれた保育所づくりを推進するため、未就園児と保護者に施設や園庭の開放を促進するとともに、行事へ地域住民の参加を促すなど、安全管理の下で開放的な雰囲気づくりに取り組みます。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安の対応

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	全保育所での施設・園庭の開放				
	これまでの進捗状況、今後の予定	実施施設数 157施設(全保育所)	全保育所での施設・園庭の開放				
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		平成22年度		平成23年度		目標
	施設・園庭の地域への開放実施施設数		計画	157 施設	158 施設	年度	
	地域活動や施設の開放を通して、未就園児と保護者の来所が増え個別の育児相談の実施など、開かれた保育所作りを推進します。		実績	157 施設		内容	全保育所(現状維持)
			達成度	100 %	%	年度	
			計画			内容	
			実績			内容	
		達成度	%	%			
コスト			事業費	千円	千円		
			うち一般財源	千円	千円		

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	地域活動を通して、地域の年長者や在宅親子との交流を行いました。。不審者対策を十分に考慮の上、開かれた保育所づくりを推進しました。
------	-------------------------------------	--

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4 : 高い 3 : やや高い 2 : やや低い 1 : 低い	4	地域住民や未就園児親子を行事や育児講座などに招待することで、保育所への理解が深まり、また専門性を生かした子育て支援は子育てに悩む保護者の方に喜ばれています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	保育所の機能を生かして、保育所への理解を得て、開かれた保育所づくりをするので、特別なコストはかかりません。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	地域のつながりが希薄している今、行事等を通して地域住民や未就園児親子が保育所の子どもたちと触れ合い楽しく過ごす中で、地域社会全体で子育てを支えるという意識が芽生え、効果が期待できます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	地域住民の理解を求め、開かれた保育所作りを推進しています。市の大切な社会資源として責任をもって地域の子育て支援のあり方をリードしています。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	今後とも保育所の機能を生かして、地域の子育て支援を充実させ、開かれた保育所づくりを進めます。	

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	この事業は、安全管理の下、継続します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---------------------	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	教育委員会・企画課
連絡先	582-2357

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	幼稚園における子育て支援機能の充実
-----	-------------------

事業的概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	学校教育法では、「幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うもの」と位置づけられています。また、市内の幼稚園児の97%が私立幼稚園に通っている現状から、本市の幼児教育における私立幼稚園の果たす役割はますます重要となっています。そこで、私立幼稚園における幼児教育の振興と保護者の経済的な負担の軽減を図るとともに、私立幼稚園の人材や機能を活用して子育て支援を行うものです。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安への対応</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	子育て支援保育補助員の活用全園				
	これまでの進捗状況、今後の予定	子育て支援保育補助員の活用全園				新たな計画に基づき実施する予定	
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）		平成22年度	平成23年度	目標		
	園庭等の地域開放事業の実施園	計画	80 園	80 園	年度	平成25年度	
	園庭等を地域に開放することにより、地域での子育て支援を推進するためです。	実績	49 園	50 園	内容	全園	
	子育て支援保育補助員の活用園	計画	96 園	95 園	年度	平成26年度	
	子育て支援保育補助員を活用し、幼稚園における子育て支援機能の充実を図るためです。	実績	88 園	90 園	内容	95園 (毎年度95園)	
		達成度	91.7 %	- %			
コスト	事業費	59,588 千円	68,983 千円				
	うち一般財源	59,588 千円	68,983 千円				

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援保育補助員補助制度は、地域の人材を活用するなど、雇用促進にも寄与するとともに、幼稚園における子育て支援機能の充実に役立っています。平成22年度は補助の拡充もあり、9割以上の幼稚園で活用されており、幼稚園からも好評を得ています。</li> <li>未就園児の親子登園が77%の園で、育児サークル支援が24%の園で実施するなど、子育て支援に寄与しています。平成22年度は、家庭教育学級を23園で開催するとともに、39園が独自に子育て相談日などを設けて活動しています。</li> </ul>
------	-------------------------------------	--

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	未就園児の親子登園が77%の園で、育児サークル支援が24%の園で実施されるなど、地域での子育て支援事業の強化につながっています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	3	地域の人材を活用するなど、雇用促進にも寄与している。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	少子化、核家族化が進む中、幼稚園における子育て支援のニーズは高く、事業の充実を図ることが必要です。特に、多様化する保育ニーズに対応するために、預かり保育の充実などに努める必要があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	市内の幼稚園の97%が私立幼稚園に通っており、本市の幼児教育における私立の役割は、大変重要です。人を育てる第一歩である幼児教育の充実が、市として最も力を入れて取り組むべき課題です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援保育補助員雇用事業については、雇用日数が増すにつれ補助額が下がることから、財政基盤の弱い小規模園は長時間での活用が困難であったため、平成22年度に制度の充実を図ったところです。今後も、幼児教育や子育て支援がますます重要になっていくと考えており、私立幼稚園への助成制度の充実を図る必要があります。</li> </ul>

次年度計画	目的実現のために23年度に実施すること	今後も、幼児教育や子育て支援がますます重要になっていくと考えており、私立幼稚園への助成制度の充実に努めます。	前年度に評価した今後の方向性
-------	---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局/子ども家庭政策課
連絡先	582-2550

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	一時預かりサービス情報の提供
-----	----------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	民間事業者が提供する子どもの一時預かりサービスに関する情報を、幅広く収集し、ホームページ「子育てマップ北九州」に専用のページを設け、情報提供を行います。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	ホームページ「子育てマップ北九州」内に専用ページ設置	民間事業者が提供する一時預かりサービスに関する情報の収集及び専用ページへの追加掲載				
	これまでの進捗状況、今後の予定	H22.12 ホームページ「子育てマップ北九州」内に専用ページ設置	民間事業者が提供する一時預かりサービスに関する情報の収集及び専用ページへの追加掲載					
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標	
	「子育てマップ北九州」内専用ページのアクセス件数				計画	600 件	2,400 件	年度
	より多くの市民に、必要とされる情報が届いているかを図る活動指標として設定しました。				実績	572 件		内容
					達成度	95.3 %	%	
					計画			年度
					実績			内容
				達成度	%	%		
コスト					事業費	千円	千円	
					うち一般財源	千円	千円	

## 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成22年12月に、ホームページ「子育てマップ北九州」に子どもの一時預かりサービスを紹介する専用のページを設けました。今後、民間事業者が提供する子どもの一時預かりサービスに関する情報を追加していく必要があります。
------	-------------------------------------	--

## 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	4	市内の一時預かりサービスに関する情報をまとめて掲載し提供することは、「子育ての悩みや不安の解消」に向けた情報を保護者にタイムリーに提供できるものと考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	ホームページ「子育てマップ北九州」の運営については、子育て支援施設の指定管理業務の中で実施し、経済的・効率的な作成・配布に努めています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	子育ての悩みや不安を感じている保護者が増加している現在、一時預かりサービスに関する情報をホームページ「子育てマップ北九州」を活用して提供することは、「子育ての悩みや不安の解消」に向けた情報を保護者にタイムリーに提供できる点で高い効果があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	市内の一時預かりサービスに関する情報をまとめて掲載しているホームページは存在せず、子育てしやすい環境づくりを進める市が実施主体となっており、情報の取りまとめを行うことは意義があると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ		今後は、一時預かりサービスを提供する民間事業者の情報を収集し掲載していきます。実施にあたっては、掲載情報の募集方法、掲載内容の精査など情報を活用する市民に誤った情報で不利益が生じないように十分配慮したいと考えています。

## 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	23年度においては、一時預かりサービスを提供する民間事業者の情報を収集し掲載していきます。実施にあたっては、掲載情報の募集方法、掲載内容の精査など情報を活用する市民に誤った情報で不利益が生じないように十分配慮したいと考えています。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	ほっと子育てふれあい事業の充実
-----	-----------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	ほっと子育てふれあいセンターにおいて、地域で子育ての応援をしたい人と子育ての応援してほしい人を組織化し、相互に援助できるような支援することにより、安心して子育てと仕事を両立できるような環境づくりに資するとともに地域の子育て支援を行い、労働者の福祉の増進及び児童の福祉の向上を図ります。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	・会員の募集 ・会員活動の調整 ・研修、交流会等の実施 ・広報	・会員の募集 ・会員活動の調整 ・研修、交流会等の実施 ・広報	・会員の募集 ・会員活動の調整 ・研修、交流会等の実施 ・広報	・会員の募集 ・会員活動の調整 ・研修、交流会等の実施 ・広報	
	これまでの進捗状況、今後の予定	会員数 2,945人	同上	同上	同上	同上	
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標
	援助を受けたい依頼会員の要望に応えるための提供（両方）会員の確保		計画				年度
	援助活動の需要に対する供給の確保に努めます。		実績	2,945 人			内容
			達成度	%	%		
			計画				年度
			実績				内容
		達成度	%	%			
コスト			事業費	14,172 千円	15,836 千円		
			うち一般財源	5,672 千円	7,336 千円		

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	定期的な会員募集を行い、援助活動の需要に応えられるだけの会員増加に努めました。(依頼会員 1,868人、提供会員 760人、両方会員 317人、会員数合計 2,945人)また、提供会員の基本研修、ステップアップ研修や会員相互の交流会活動を通じて、会員の資質向上に努めています。子育ての応援をしたい人(提供会員)と子育ての応援をして欲しい人(依頼会員)の相互援助活動により、地域での子育て支援の輪を広げています。
------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4 : 高い 3 : やや高い 2 : やや低い 1 : 低い	4	仕事の都合で保育所等への送迎ができない方や、急な用事のために子どもを預ける必要がある方を援助し、労働者の福祉の増進及び児童の福祉の向上に寄与することにより、十分な効果が得られていると考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	会員数、活動件数が毎年増加しているのに対し、委託料は増額せずに効率的な運営を図っています。しかし、これ以上の削除の余地はないと考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	平成22年度実績で会員数約3,000名、活動件数約17,000件にもおぼり、現在も増加しています。この事業を休止・廃止した場合、市民生活に重大な影響を及ぼすと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	ボランティア組織による活動であり、また、国の「仕事と家庭両立支援特別援助事業」に基づく事業でもあるため、市の関与は必要であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	共働き家庭の増加により、援助活動への需要は益々高まり、本事業の果たす役割は大きくなると考えられます。今後益々増加していくと考えられる援助活動の依頼に十分対応できるよう、引き続き効果的なPR等を実施することにより提供会員数の増加を図り、労働者の福祉の増進及び児童の福祉の向上を目指します。	

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	引き続き、効果的なPR等を実施し、会員数の増加を図ります。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	-------------------------------	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	一時保育事業
-----	--------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	保護者のパート就労や冠婚葬祭、及び育児リフレッシュ等の理由により、一時的に家庭での保育が困難となる児童を保育所において保育します。今後は、実施箇所数を増やし、また保育所での保育が可能な障害のある子どもの受け入れを促進します。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安の対応	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	一時保育事業を実施する保育所数の増						平成26年度 64箇所
	これまでの進捗状況、今後の予定	一時保育事業実施保育所数:54箇所	一時保育事業実施保育所数:58箇所	一時保育事業を実施する保育所数の増		平成26年度 64箇所			
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)					平成22年度	平成23年度	目標	
	一時保育事業を実施する保育所					計画	54 箇所	58 箇所	年度 平成26年度
	保育所の新設や直営保育所の民営化に伴う一時保育事業の実施および既存保育所での新規実施により実施保育所数の増を図ります。					実績	54 箇所		内容 64箇所
						達成度	100 %	%	
						計画			年度
						実績			内容
					達成度	%	%		
コスト						事業費	48,634 千円	48,381 千円	
						うち一般財源	22,853 千円	12,729 千円	

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	新規4施設で一時保育事業を実施するための施設整備を実施しました。
------	-------------------------------------	----------------------------------

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	延べ利用人数は2549人・日であり、多様化する就労形態への対応、育児リフレッシュに高い効果があります。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	補助金は利用児童数に応じた額となっており、限られた補助金額の中で人員配置、事業の実施を行っており、コストを削減する余地は少ないと考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	パート就労等の利用ができなくなります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	事業の性質上保育所機能の一部として実施する必要があります。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	一時保育には専用の保育スペースが必要であり、今後も新設の保育所や直営保育所の民営化に合わせて、平成26年度までに64箇所において一時保育施設の拡充をします。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	23年度より新規4箇所では一時保育事業の実施を予定しています。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---------------------------------	----------------



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	ショートステイ・トワイライトステイ事業
-----	---------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	児童養護施設等において保護者等の就労や疾病、冠婚葬祭などによる緊急・一時預かりや保護者のリフレッシュなど、幅広いニーズに対応します。また、「ほっと子育てふれあい事業」など他の関連サービスとの十分な連携を図り、利用しやすい環境づくりに努めます。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	事業を周知し、必要に応じて利用を促す	事業を周知し、必要に応じて利用を促す	事業を周知し、必要に応じて利用を促す	事業を周知し、必要に応じて利用を促す	
	これまでの進捗状況・今後の予定	利用延べ児童数 92人	同上	同上	同上	同上	
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標
	利用延べ児童数	計画					年度
	利用の必要がある市民ニーズに十分応えられるようにします。	実績	92	人			内容
		達成度	%	%			
		計画					年度
		実績					内容
	達成度	%	%				
コスト	事業費	4,246 千円	3,973 千円				
	うち一般財源	1,437 千円	1,987 千円				

## 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	利用の必要がある市民のニーズに応えるよう努めました。また、事業を周知することで潜在的なニーズに応えるよう努めます。
------	-------------------------------------	---

## 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	4	出張等により児童の養育が困難となるときに当サービスがあることは、ひとり親家庭等さまざまな家庭での仕事と子育ての両立を可能にするため、有効です。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	既存の児童養護施設・乳児院の定員の空きを活用しており、効率的です。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	実施しなかった場合、他に数日間宿泊や夜間に子どもを預かるサービスが他にはないため、市民に重大な影響を及ぼすことが考えられます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	児童養護施設や乳児院を指導監督する立場の市が関与することで、より質の高いサービスを提供することができるため、市の関与をなくすことは適当ではありません。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	事業を周知し、必要に応じて利用を促します。また、「ほっと子育て」など他の関連サービスとの十分な連携を図り、利用しやすい環境づくりに努めます。	

## 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	事業を周知し、必要に応じて利用を促します。また、「ほっと子育て」など他の関連サービスとの十分な連携を図り、利用しやすい環境づくりに努めます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	放課後児童ヘルパーの設置
-----	--------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	地域の特色を活かした放課後児童クラブの活動を推進していくため、地域と連携を図り、地域の人材を「放課後ヘルパー」として登録し、活動を支援していきます。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安の対応	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	活動内容調査	モデル事業の実施	事業実施	事業実施		事業実施
	これまでの進捗状況・今後の予定	活動事例集作成	同上	同上	同上	同上		
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標	
	ヘルパー活用クラブの割合				計画		年度	平成26年度
	放課後児童クラブの多くは、地域の方が運営に参画されており、地域の特色を活かした放課後児童クラブの活動を推進していくために、「放課後児童ヘルパー」として登録し、活動を支援していきます。				実績		内容	50%
					達成度	%	%	
					計画		年度	
					実績		内容	
				達成度	%	%		
コスト					事業費	千円	千円	
					うち一般財源	千円	千円	

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	各放課後児童クラブの夏休みの活動内容を調査し、活動事例集を作成しました。また、活動事例集を放課後児童クラブのほか小学校、市民センターなど地域での子育て支援に関わる施設や関係機関に配布するとともに、「地域で支える子ども・子育て研修」を実施し、放課後児童クラブの指導員・運営委員に加え、関係機関にも参加していただき、放課後児童クラブへの理解及び今後の活動に対する協力、支援を呼びかけました。
------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	地域の特色を活かした放課後児童クラブの活動を推進していくために、地域の人材を「放課後児童ヘルパー」として登録し、活動を支援することは、放課後児童クラブの質の向上にあたって非常に有効であるといえます。	
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	3	放課後児童クラブの多くは、地域の方が運営に参画されており、こうした地域の人材を「放課後児童ヘルパー」として登録していきますので、経済性・効率性が高いといえます
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	3	従来の「安全な子どもの居場所づくり」との視点だけでなく、地域との連携(地域の人材をヘルパーとして登録)を通じ、放課後児童クラブの活動内容の充実を図ることは、地域社会全体の子育て力を高め、子どもが健やかに成長するために、重要な取組であり、適時性は高いといえます。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	3	3	地域の方々の協力や支援や活動内容については、放課後児童クラブによってその取り組みに差があり、放課後児童ヘルパーの仕組みづくりなど、市の関与の必要性は高いといえます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	今後、モデル事業等を通じて、具体的な仕組みづくりを進めます。	

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	活動事例集などをもとに、夏休みの活動を中心に、放課後児童ヘルパー活動モデル事業を実施します。また、青少年課の「青年リーダー(ボランティア)との連携事業」など他機関の事業との連携を図ります。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	保健福祉局・高齢者支援課
連絡先	582 - 2407

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	高齢者による子育て支援モデル事業
-----	------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	高齢者による豊富な経験を活かした子育て支援を行うボランティア活動を支援することで、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりの一翼を担うとともに、高齢者自身の生きがいづくりなどを促進します。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	事業目的の達成に向けた積極的な取組みの推進					→
実施状況	これまでの進捗状況、今後の予定	事業目的の達成に向けた積極的な取組みの推進					→	
	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	計画		平成22年度	平成23年度	目標		
コスト	事業費	計画	—	—	年度			
		実績			内容			
		達成度			年度			
		達成度			内容			
コスト	うち一般財源	事業費	千円	千円				
		うち一般財源	千円	千円				

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	主な活動内容:本の読み聞かせ、昔遊び指導、託児支援等
------	-------------------------------------	----------------------------

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		実施主体は生きいき長寿推進協会事業です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	従前から「生きいき長寿推進協会」の事業として実施しています。平成23年度以降の事業評価票の作成はしません。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	保健福祉局-いのちをつなぐネットワーク推進課
連絡先	582-2060

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	社会福祉ボランティア大学校運営委託
-----	-------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	地域住民の福祉に対する知識の向上や、住民参加で福祉サービスの利用者を支える仕組みづくりのため、地域福祉を担う人材の育成・強化を図るための各種研修事業を実施しています。事業の実施にあたっては、北九州市が北九州市社会福祉協議会へ委託し、ボランティア大学校において、ボランティア・市民活動センターとの連携を図りながら実施しています。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安への対応</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	地域福祉の向上を図るため、その人材を養成するための研修の実施				
	これまでの進捗状況・今後の予定	地域福祉の向上を図るため、その人材を養成するための研修の実施					
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標
	ニーズに対応した研修の実施	計画			32 講座	32 講座	年度 平成26年度
	研修受講者にはアンケートを取っており、この意見も参考に研修メニューの見直しを行っています	実績			46 講座	講座	内容 32講座の開催
	関係団体との連携	達成度			143.8 %	%	
	研修については、地域や団体に広くPRするとともに、受講者がその後地域で活動できるよう、市及び区のボランティア・市民活動センターと連携しています	計画					年度
		実績					内容
達成度							
コスト	事業費				34,721 千円	35,991 千円	
	うち一般財源				34,721 千円	35,991 千円	

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	地域等での福祉活動を担う人材育成のため、市民講演会、市民講座、スキルアップ研修、地域活動者研修、地域活動者支援研修、福祉有償運送運転協力者研修、その他研修を実施している。また広報誌や事業報告書の作成等を行っている。
------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	3	地域等での福祉活動を担う人材育成に資するものであり、また、研修受講者については、その研修成果を地域での福祉活動につながっている例もあり、研修は有効に機能しているものと考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		3	ボランティアに関する研修は、市の他の部署でも行われている例があり、同様の趣旨の研修を統合することなどにより、より効率性が図られるものと考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		3	地域福祉を担う人材の育成は、期限を決めて行うような性質のものではなく、今後とも継続的に続けていく必要があるものと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすことはできないのか。		3	研修を受けられた方が実際地域に活動されており、この活動が本市の地域福祉施策を行う上で重要な役割を担っているため、今後も市が関与して研修を実施する必要性は高いと考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア	地域福祉を担う人材の育成は、本市の福祉施策を推進する上で重要なものと考えており、より多くの方に受講していただけるよう内容等について今後も検討する必要があるものと考えています。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	受講メニューや研修内容については、ニーズを把握のうえ、検討します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	-----------------------------------	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	産業経済局・雇用開発課
連絡先	882-5400

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	シルバー人材センターによる「高齢者活用子育て支援事業」
-----	-----------------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	子育て経験の豊富なシルバー人材センターの会員が保育園への送迎、子守、託児等のサービスを行います。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定		シルバー人材センターにおける子育て支援事業の拡充と普及啓発			
これまでの進捗状況・今後の予定		受注件数430件	シルバー人材センターにおける子育て支援事業の拡充と普及啓発				>
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標
	子育て支援事業にかかる受注件数		計画	450 件	450 件	年度	平成26年度
	「子どもの成長と子育てを地域で支え合うまちづくり」に沿って、シルバー会員が母親の子育てを支援する。		実績	430 件		内容	450件 (毎年度450件)
			達成度	95.6 %	%	内容	
			計画		人	年度	
			実績			内容	
コスト			達成度	%	%		
			事業費	千円	千円		
				うちシルバー財源	369 千円	千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。
概ね計画通り実施されました。	

【事業の再検証】				
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	子育ての悩みや負担軽減には効果があると考えます。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い	4	高齢者の就業機会を増やす方法の一つであるため、新たなコストは発生しません。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2: やや低い 1: 低い	4	核家族化の進行と子育て重視の環境下での施策実施は、タイムリーと思われます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		3	子育て支援に高齢者の経験を活用することは、社会的要請も高いことから、シルバー人材センターが実施する本事業への支援は市の責務であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	今後も育児ヘルパー養成講座やPR活動を行うことによって子育て支援の充実を図っていきます。	
ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了				

【次年度計画】	
目的実現のために23年度に実施すること	引き続き子育て支援事業が実施されるようシルバー人材センターを支援します。
	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	教育委員会 指導企画課・生涯学習課
連絡先	582-2367・2385

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	スクールヘルパー
-----	----------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	地域の人材や教育機能を学校教育に生かし、地域と学校が連携して子どもたちの「生きる力」をはぐくむことを目的に、地域人材をスクールヘルパーとして学校に登録し、学校への支援活動を実施します。教員の子どもと向き合う時間の確保と地域の教育力の向上を図るため、地域の協力のもと学校の教育活動等を支援する体制づくりを推進します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安への対応</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		計画変更理由
		当初の予定	スクールヘルパーの活用 登録者数:7,600人 延べ活動人数:103,750人	登録者数:7,800人 延べ活動人数:107,500人	登録者数:8,000人 延べ活動人数:111,250人	登録者数:8,200人 延べ活動人数:115,000人	新たな計画に基づき実施する予定		登録者数について、当初計画を上回ったため上方修正			
		これまでの進捗状況、今後の予定	スクールヘルパーの活用 登録者数:8,817人 延べ活動人数:101,706人	登録者数:9,000人 延べ活動人数:107,500人	登録者数:9,000人 延べ活動人数:111,250人	登録者数:9,000人 延べ活動人数:115,000人	新たな計画に基づき実施する予定					
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)											
	スクールヘルパー延べ活動人数	計画	103,750	人	107,500	人	年度	平成25年度				
	地域の人材を学校教育に生かし、地域と学校が連携して、児童生徒の学校生活への支援を行います。	実績	101,706	人			内容	115,000人				
		達成度	98	%		%						
		計画		人			年度					
		実績					内容					
	達成度		%		%							
コスト	事業費	56,142	千円	71,508	千円							
	うち一般財源	56,142	千円	70,404	千円							

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 これまでの安全対策・教育支援などの活動に加えて、読書活動の充実に協力いただく「ブックヘルパー」の取組みや学校支援地域本部事業など、スクールヘルパーの活動領域拡大につながる取組みを進めたことから、スクールヘルパーの延べ活動回数は目標を若干下回ったものの前年度比約6,000回(6%)増となっており、スクールヘルパー制度を活用した学校支援が進んでいます。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	平成13年度に開始されたスクールヘルパー事業は、各校の実態に応じて登下校時の見守り活動等の安全対策や授業の準備、特別支援教育の支援など様々な場面で活用されており(平成22年度登録者数8,817人、延べ活動人数101,706人)、学校と保護者、地域との連携が深まるなど、地域と連携した学校運営の実現につながっています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	1回の活動につき500円(活動内容によっては1,000円)という金額で、学校の教育活動を支える多くのマンパワーを得ており、経済性は高いと考えます。学校のニーズにあった制度の運用を図り、スクールヘルパーの活動がより効果的なものとなるよう事業を推進しています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	スクールヘルパーは学校運営に不可欠なマンパワーとなっています。また、地域で学校を支援する体制づくりの基本的な事業として、積極的に実施していく必要性が高いと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	市立学校を支援する事業であるので、他の実施主体は考えられず、実施主体は市が適当であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア	本事業の実施により、学校支援のためのボランティア活用が進んでおり、地域と連携した学校運営の実現につながっています。今後も、ブックヘルパーや学校支援地域本部など学校のニーズに応じた取組みを充実することにより、スクールヘルパーの活動領域を広げていく必要があると考えます。

【次年度計画】	
目的実現のために23年度に実施すること	引き続き学校教育支援や子どもの安全確保のため、積極的に各学校において地域の人材を活用していくとともに、学校の読書活動を支援していただく「ブックヘルパー」や「学校支援地域本部事業」の支援対象分野の拡充など、学校のニーズに応じてスクールヘルパーの活動領域を広げるための取組みを進めていきます。
	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	教育委員会・生涯学習課
連絡先	582-2380

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	地域人材バンクの整備
-----	------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	生涯学習についての理解やボランティアへの熱意を持ち、持っている知識や経験、技能を地域社会で積極的に役立てようとする意欲のある個人又は団体を講師又はボランティアとして登録し、ホームページにて広く市民に紹介することを通して、地域での生涯学習活動を支援します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安への対応</b>

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	地域人材バンクの整備 人材バンク登録者数 260人	新計画(北九州市生涯学習推進計画)に基づき実施する予定					
		これまでの進捗状況、今後の予定	人材バンク登録者数 257人	新計画(北九州市生涯学習推進計画)に基づき実施する予定					
【実施状況】	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)			平成22年度		平成23年度		目標	
	人材バンク登録者数			計画	260	人	年度	平成22年度	
	講師、ボランティアの新規募集を行い、人材バンクの充実を図ります。			実績	257	人	内容	260人	
				達成度	98.8	%		%	
				計画			年度		
				実績			内容		
			達成度	%	%				
【コスト】				事業費	851	千円	1,300	千円	
				うち一般財源	851	千円	1,300		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 平成22年度は、登録者の増加はなりませんでした。登録者に対する登録内容確認により、掲載内容(情報)を最新の状態に更新しました。

【事業の再検証】				
【評価】	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	生涯学習についての理解やボランティアへの熱意を持ち、持っている知識や経験、技能を地域社会で積極的に役立てようとする意欲のある個人又は団体の情報提供は、地域での生涯学習の推進に有効であったと考えます。	
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い	3	民間事業者の保有する生涯学習支援システムを活用することで、開発経費等を抑えることが出来たと考えます。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2: やや低い 1: 低い	4	地域での生涯学習を推進するためにも、より多くの講師及びボランティアの情報提供する仕組みは今後も必要であると考えます。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	地域での生涯学習を推進するため、多くの人材の登録を促し、事業拡大を図るには、当面は市が主体となって当事業を推進する必要があると考えています。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア	地域での生涯学習を推進するため、引続き、講師、ボランティアの新規募集を行い、人材バンクの充実を図ります。	

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	講師、ボランティアの新規募集を行い、人材バンクの充実を図ります。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	市民文化スポーツ局地域振興課
連絡先	582-2111

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	NPOボランティア活動促進事業
-----	-----------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	地域の課題に自ら対応し、市民が自発的、主体的に公共活動に参画する市民社会の形成に向けて、まちづくりの重要な担い手であるNPOやボランティア団体などの市民活動を促進するため、市民活動サポートセンターを中心に相談受付や活動促進、人材育成のための研修・啓発事業を実施します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安への対応</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	年度					計画変更理由
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
実施状況	当初の予定	NPO法人数270	NPO法人数290	NPO法人数310	NPO法人数330	NPO法人数340	
	これまでの進捗状況、今後の予定	NPO法人数263	NPO法人数290	NPO法人数310	NPO法人数330	NPO法人数340	
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）		平成22年度		平成23年度		目標
	NPO法人数		計画	270 法人	290 法人	年度	平成26年度
	事業の成果について、さまざまな施策によって活動に目覚めた市民が、それぞれの目的の達成に向けて市民活動団体を主体的に発足させたNPO法人数の増加量を評価の指標とします。		実績	263 法人	法人	内容	340法人
			達成度	97.4 %	— %	内容	
			計画		-	年度	
			実績			内容	
コスト		事業費	14,294 千円	15,885 千円			
		うち一般財源	13,818 千円	15,221 千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	実施状況の指標で、NPO法人数は若干目標を下回ったものの97.4%という数字は、市民活動サポートセンターで、利用者のニーズに即した支援策を行ったことが、評価されたものと考えています。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	市民活動サポートセンターは、市民活動に関する相談や情報提供などの支援を行う拠点として活用されており、団体の基礎体力向上には成果がありました。専門的相談への対応や、よりニーズに即した研修啓発事業の実施など、より強化を図る必要があります。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4 3: やや高い	市民活動サポートセンターは、行政施設の一部を活用して行政機関の窓口の一部として直営で運営してところであり、職員についても嘱託職で対応していることから、経済効率は高いものと考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	3 2: やや低い	市民ニーズが多様化・複雑化・高度化するなか、行政単独で対応することが困難となってきており、NPOが新たな地域・社会活動の担い手として、今まで以上の役割を担っていくことが期待されています。今後、NPOの活動を推進するための支援は、更に重要性を増していくことになると考えられます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすることはできないのか。	3 1: 低い	他都市では、市民活動団体の支援を専門的に担う中間支援組織に、同様の市民活動支援施設の管理運営を委託しているケースが多く見られますが、本市には対応可能な中間支援団体がないこと、及びNPO支援の重要性が増すなか、NPOと行政の接点となる窓口を維持することは重要であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	新たな地域・社会活動の担い手としてNPOの果たす役割の拡大が期待されていることを考え、従来からの市民活動に関する相談受付や情報提供などの市民活動サポートセンターの機能の充実と合わせて、NPOなどの団体の育成支援を行っていきます。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	従来からの市民活動に関する相談受付や情報提供などの市民活動サポートセンターの機能の充実と合わせて、NPO等の活動支援・育成支援及び団体相互間の協力促進に力を注いでいきます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	市民文化スポーツ局地域振興課
連絡先	582-2111

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	市民活動保険
-----	--------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市民が安心して地域活動やボランティア活動に取り組むことができるよう、北九州市が保険料を負担して、これらの活動中の事故に対して一定水準の補償を行います。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応	

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	市民活動保険実施				
	これまでの進捗状況、今後の予定	市民活動保険実施					
【実施状況】	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標
	市民活動保険実施			計画	実施	実施	年度
	市民が安心して地域活動やボランティア活動に取り組むことができるよう、北九州市が保険料を負担して、これらの活動中の事故に対して一定水準の補償を行います。			実績			内容
				達成度	%	%	
				計画			年度
				実績			内容
			達成度	%	%		
【コスト】				事業費	5,730 千円	6,176 千円	
				うち一般財源	5,730 千円	6,176 千円	

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	市民が安心して地域活動やボランティア活動へ取り組むことができるよう、引き続き市民活動保険を実施しました。
--------	-------------------------------------	--

### 【事業の再検証】

【評価】	【有効性】 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4 : 高い 3 : やや高い 2 : やや低い 1 : 低い	4	市民活動保険を実施することで、市民が安心して子育て支援などの地域活動やボランティア活動に取り組むことができます。
	【経済性・効率性】 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	市民活動保険の保険料は、入札により経済性・効率性を確保しています。
	【適時性】 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	市民活動保険を実施しなかった場合、市民が安心して子育て支援などの地域活動やボランティア活動に取り組むことができなくなり、市民活動全般へ影響を与えます。
	【市の関与の必要性】 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	市民の地域活動やボランティア活動の無償性を考慮すれば、市が取り組むべき事業です。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	市民が安心して地域活動やボランティア活動へ取り組むためには、引き続き市民活動保険を実施することが求められます。	

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	引き続き、市民活動保険を実施します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--------------------	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	市民文化スポーツ局地域振興課
連絡先	582-2111

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	NPO公益活動支援事業
-----	-------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	NPO法人又は市民活動団体が専門性等を十分に発揮して行う意欲的かつ先進的な取り組みを支援することにより、本市におけるNPO活動の更なる発展を図ります。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	補助交付事業 10件	補助交付事業 10件	補助交付事業 10件	補助交付事業 10件		補助交付事業 10件
	これまでの進捗状況、今後の予定	補助交付事業 10件	補助交付事業 10件	補助交付事業 10件	補助交付事業 10件	補助交付事業 10件		
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標	
	補助交付事業件数				計画	10 件	10 件	年度 平成26年度
	事業の成果について、市内全域を対象とするまちづくり活動、地域課題の解決につながる活動、市のイメージアップに寄与する活動に対する補助交付事業件数の量を評価の指標とする。				実績	10 件		内容 補助交付件数 10件
					達成度	100 %	— %	年度
				計画			年度	
				実績			内容	
			達成度	%	— %	内容		
コスト				事業費	5,275 千円	5,500 千円		
				うち一般財源	5,275 千円	5,500 千円		

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成22年度は、10団体10事業に対して補助金を交付しましたが、補助の対象となった事業は、いずれも公益性が高く、NPOの専門性や先駆性が活かされた事業でした。 また、平成22年度から新たに当該事業を活用して、より良い協働を推進するため、NPOと市が実際に協働して事業を実施する「NPO協働提案モデル事業」に取組みました。
------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があつたのか。	4	当該事業は、NPOの地域課題の解決に向けた専門的で先駆的な実践を伴うものであり、実際に市民福祉の向上に大きな成果をあげるとともに、事業の審査や成果の公開・広報を通して、市民活動の活性化に大きく寄与しています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	地域の事情に精通した地域団体や高い専門性を有する市民活動同団体が地域課題の解決に取り組んでいるため効果的かつ効率的な運営となっています。平成22年度の事業の中には、「家族で楽しみながら、子どもの体力向上を図る取組み」や「青少年にさまざまな体験活動を提供する取組み」など、NPOと行政との協働して取り組む事業があり、行政が直接実施することに比べ、より効率的で効果的な成果を得ることができました。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	当該事業は、市民活動を促進するだけでなく、NPOと地域団体との協働、NPOと行政との協働の推進に大きな寄与しており、現在本市が目指している「市民のちから」によるまちづくりを進めていくための原動力になっており、廃止した場合の影響はたいへん大きなものであると考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	現在、市内の市民活動団体は、経営基盤が磐石でないものも少なくないため、新たな取組みを行う際には契機となる後押しが必要であるとともに、今後更なる成長を促すためには一定の支援が不可欠です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア	現在、当該事業を活用してNPOと行政とのより良い協働を推進するためのモデル事業に取り組んでいるところですが、今後、協働を推進するための事業については、分離独立することを含めて検討します。 なお、NPOが独自性を発揮して取り組む事業については、今後とも積極的に支援することで、市民活動の一層の促進を図ってまいります。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	子育て支援などを担うNPOの活動が更に活性化するよう、市民活動団体が専門性等を十分に発揮して行う意欲的かつ先進的な取り組みについて、事業費の一部を助成する「NPO公益活動支援事業」を引き続き実施します。 また、NPOと行政との協働して取り組む事業をモデル的に実施します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	保健福祉局-いのちをつなぐネットワーク推進課
連絡先	582-2060

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	ボランティア活動促進事業
-----	--------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市ボランティア・市民活動センターでは、ボランティア団体とのネットワークの構築、ボランティアに関する普及・啓発活動の実施、ボランティアの養成などを総合的に支援し、各区ボランティア・市民活動センターでは、より地域に根ざしたボランティアの情報収集や実態把握、需給調整を行っており、市からボランティア・市民活動センターを運営する北九州市社会福祉協議会に対して補助金を交付しています。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安への対応</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	北九州市社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センターへの補助金の交付				
	これまでの進捗状況、今後の予定	北九州市社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センターへの補助金の交付					
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）		平成22年度	平成23年度	目標		
	ボランティア登録団体数	計画			年度		
	ボランティアの活性化のため、指標として掲げます。活動者の支援をしています。	実績	745 団体		内容		
	ボランティア登録人数	計画			年度		
	ボランティアの活性化のため、指標として掲げます。活動者の支援をしています。	実績	22,096 人		内容		
	達成度						
コスト	事業費	39,306 千円	38,733 千円				
	うち一般財源	37,808 千円	37,230 千円				

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	ボランティア活動の普及・啓発、ボランティア・NPO団体支援、虚弱高齢者送迎サービス、腕自慢おまかせサービスなどの事業など、当初の計画に沿った事業が実施しています。 また各区ボランティア・市民活動センターにおいて、ボランティア需給調整や活動の相談も受けており、ボランティアの活性化等に向けて取り組みを進めています。(H21年度末現在 ボランティア登録数 745団体 23,977人)
------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	ボランティアの需給調整等の窓口として、ボランティア・市民活動センターは重要な役割を果たしており、効果は十分に上げているものと考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	3	ボランティア活動そのものについては、NPO団体等が多数存在し、それぞれ活動をされていることから、これらが実施している事業との調整が図れば、より効率性が図られるものと考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	3	行政サービスの対応が難しい分野について、ボランティアによる対応等が行われている現状があり、実施しない場合は、結果的に行政が対応を行うことになり影響が大きいと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	3	ボランティアの活動は、市と団体や地域の方と協力しながら進めていくことが重要であり、今後も市の一定の関与は必要であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	今後も社会情勢の変化や福祉制度の改革に伴い、多様化するニーズに対応するため、ボランティア活動の活性化が求められており、現状のまま進めることが適当と考えます。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	引き続きボランティア活動の活性化に努めます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	------------------------	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	産業経済局・商業振興課
連絡先	551-3646

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	空き店舗賃借料補助
-----	-----------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	本事業は、商店街の市場機能の維持向上や新規開業を促進するため、商店街の空き店舗への出店について、賃借料等を一部補助することにより、地域商業の振興に資することを目的としています。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応	

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定		商店街の空き店舗への出店者等の助成制度実施			
	これまでの進捗状況、今後の予定	平成22年度 開業支援補助等10件 (内新規7件)	助成制度の改正 (事業の統合など)	商店街の空き店舗への出店者等の助成制度実施			
【実施状況】	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		平成22年度		平成23年度		目標
	空き店舗賃借料補助件数	計画			年度		
	平成22年度 開業支援・コミュニティ支援・チャレンジショップ推進事業の件数 (平成23年3月末現在)	実績	10	件	内容		
		達成度	%	%	年度		
		計画			年度		
		実績			内容		
	達成度	%	%	年度			
【コスト】	事業費	2,826	千円	9,071	千円		
	うち一般財源	2,826	千円	9,071	千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 事業の性格上、目標数値の設定は困難です。開業支援8件、コミュニティ支援事業1件、チャレンジショップ推進事業1件の計10件の補助を実施しました。

【事業の再検証】				
【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	出店時の経済的負担の軽減に併せ、他機関との連携による経営指導などをおこなうことにより、一定の効果はあるものと考えています。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	3	事業者育成の観点から、開業前後の経営指導については、中小企業支援センターや商工会議所などと協力し、より高い効果が得られるよう工夫しています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	3	出店時の費用負担が重たい時期に、タイムリーに賃借料等を補助することで開業促進の効果が期待できます。	
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	3	出店時の経済的負担の軽減に併せ、他機関との連携による経営指導などをおこなうことにより、一定の効果はあると考えられるため、市が支援する必要性は高いと思われます。	
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	今後も事業を継続することによって、魅力ある商店街づくりに努めていきたいと思いを。	

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	補助事業先の事業継続率の向上を図るため、アドバイザーの派遣を行なうなどのフォローを実施します。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成22年度実施事業

新規	拡充	重点	継続

担当局/課	市民文化スポーツ局地域振興課
連絡先	582-2111

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	校区まちづくり<企画・実践>事業
-----	------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	平成18年度からまちづくり協議会が実施する地域づくりの目標や活動計画等からなる「まちづくり計画」を策定する活動(企画事業・助成額:1団体あたり15万円を限度)や地域課題の解決を図る活動(実践事業・助成額:1団体あたり20万円を限度)に対して助成しています。この補助金の活用により、地域団体の連携・協力を図り、地域が一体となった住民主体の地域づくりを促進します。平成23年度からはこれまでの<企画・実践>事業を統合し弾力的な運用ができるようにするなどの制度改革を行い、組織の活性化等を図ります。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応

目的実現の為に実施する内容	実施工程	年度					計画変更理由
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
当初の予定	事業実施まちづくり協議会数	105団体	110団体	116団体	122団体	136団体	年度未定で校区まちづくり事業を136団体が実施するとなっていたが、年度ごとの目標数値を定めた。団体数の9割実施が目標。(平成23年度より事業改正)
	校区まちづくり実践事業実施団体数	97団体	110団体	116団体	122団体	123団体	
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	校区まちづくり実践事業を実施するまちづくり協議会の団体数	計画	105 団体		年度	
		地域総括補助金の補助項目の一つとして交付しているもので、補助金制度を導入しているまちづくり協議会のうち9割以上が校区まちづくり実践事業を活用したまちづくり活動を行うよう働きかけを行います。	実績	97 団体		内容	
		達成度	92.4 %		%		
		校区まちづくり支援事業を実施するまちづくり協議会の団体数	計画		110 団体	年度	平成26年度
コスト	事業費	うち一般財源	1,127 千円	3,584 千円			
			1,127 千円	3,584 千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	校区まちづくり<実践>事業を活用した活動事例の発表会を開催する等、住民主体の地域づくりについての理解を深める取り組みを行った結果、平成22年度の実施団体は前年度より3団体増えて97団体となりました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本事業の開始以来、助成団体は年々増加しています。この事業を通じて地域全体で活動に取り組む体制が整ったことやまちづくり計画等に基づき計画的な活動を行うようになったことなど、施策の実現に向けて効果をあげています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	助成額は1団体あたり20万円を限度としていることから、地域では自主財源の確保に努めるなどコスト意識を持って事業に取り組んでおり、助成金額以上の事業効果が得られています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	地域総括補助金の補助項目の一つとして、本事業は地域団体間の連携強化や地域活動の活性化に必要な事業であり、本事業を実施しないと地域活動が停滞するおそれがあることから、今後も積極的に実施していく必要があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	地域団体が住民主体の地域づくりを進めるためには活動の財源確保が必要不可欠であり、財源不足により地域活動に支障をきたさないよう市が活動費について支援することは必要であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア	本事業は施策に対する有効性も高く、「市民主体の地域づくりの促進」を図っていくうえで重要な事業であると考えています。今後も引き続き、目標の達成に向けて着実に取り組んでいきます。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	これまでの企画・実践事業を統合し弾力的な運用ができるようにするほか、新たにまちづくり協議会に対する運営経費の支援を行うことができるように制度改革を行い組織の活性化等を図っていく。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	市民文化スポーツ局地域振興課
連絡先	582-2111

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	コミュニティ支援機能の充実
-----	---------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	平成16年度から市の各部署が事業ごとに地域団体に交付していた防犯灯設置・維持管理や公園愛護、青少年団体育成、健康づくり事業等13項目の補助金を可能な限り一本化した「地域総括補助金」をまちづくり協議会に交付しています。この補助金の活用により、地域団体の連携・協力を図り、地域が一体となった住民主体の地域づくり・まちづくりを促進します。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応	

実施工程	当初の予定	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		「新たな地域づくり(地域総括補助金)導入まちづくり協議会数 116団体	122団体	128団体	136団体	136団体	
これまでの進捗状況・今後の予定	「新たな地域づくり(地域総括補助金)導入まちづくり協議会数 116団体	122団体	128団体	136団体	136団体		

  

実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		平成22年度	平成23年度	目標	
	「新たな地域づくりに取り組んだまちづくり協議会数(地域総括補助金導入団体数)」	計画	116 団体	122 団体	年度	平成26年度
	まちづくり協議会に対して地域総括補助金の制度導入と継続的な制度活用の働きかけを行います。また、地域にとって使い易い制度になるよう改善を図るため、「改善プロジェクト会議」を設置し検討を行います。	実績	116 団体		内容	136団体
		達成度	100 %	%		
		計画			年度	
		実績			内容	
	達成度	%	%			

  

コスト	事業費		平成22年度	平成23年度
		うち一般財源	278,001 千円	367,275 千円

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	申請書類等の様式を統一するなど、地域の申請事務の負担軽減等に取り組んだ結果、前年度から6団体増加して、116のまちづくり協議会が地域総括補助金を導入しました。
------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

評価	有効性	この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	従来は各部署から縦割りで補助金が交付されていたため、各団体の活動も縦割りとなり、団体間の連携を阻害していました。制度の導入により、補助対象事業費の50%まで流用が可能のため、他の事業に充当することができることや補助対象の中の事業を実施する団体が無い場合でもまちづくり協議会として実施する場合は補助金が受けられることなど施策の実現に向けて効果をあげています。
	経済性・効率性	同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	従来は各地域団体が個別に活動していたため、活動が重複し非効率な面がありましたが、制度の導入により効果的・効率的な地域活動が行われています。また、申請時に提出する書類を減らすとともに、記載事項も少なくするなど申請書類を簡素化し、事務負担の軽減を図っています。
	適時性	今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	本事業は地域団体間の連携強化や地域活動の活性化に必要な事業であると考えており、本事業を実施しないと地域活動が停滞するおそれがあります。また、平成25年度に全てのまちづくり協議会が制度を導入するよう計画的で着実な取組みを進めていく必要があります。
	市の関与の必要性	実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	地域団体が住民主体の地域づくりを進めるためには活動財源の確保が必要不可欠ですが、地域の自主財源の確保には限度があります。地域活動を促進するうえで市が活動費を支援することは必要であると考えており、実施主体は市が適当だと考えます。
今後の方向	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア	本事業は施策に対する有効性も高く、「市民主体の地域づくりの促進」を図っていくうえで重要な事業であると考えています。今後も、目標の達成と制度の改善に向け、「改善プロジェクト会議」の検討結果に基づき、制度全体の仕組みづくりや地域における事務手続き、行政の支援体制を柱に検討を進めることとします。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	地域総括補助金の事務処理方法の改善や様式の見直しを進め、事務負担の軽減を検討します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	保健福祉局・健康推進課
連絡先	2018

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	市民センターを拠点とした健康づくり事業
-----	---------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市民が主体となり話し合い、目標の設定・目標を達成するためのプログラム設定・実践・事業評価を一つのサイクルとし、まちづくり協議会、健康づくり推進員の会、食生活改善推進員協議会、医師会、歯科医師会、栄養士会、行政(保健師等)等が連携した健康づくりの取り組みを全市的に展開していきます。さらに、地域で健康づくり活動などに積極的に取り組む人材として健康づくり推進員を養成します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安の対応</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	「地域でGO!GO!健康づくり」の実施または健康づくり推進員を複数配置している市民センター数 129市民センター					(新たな計画に基づき見直し予定)
これまでの進捗状況、今後の予定		「地域でGO!GO!健康づくり」の実施または健康づくり推進員を複数配置している市民センター数 122市民センター	「地域でGO!GO!健康づくり」の実施または健康づくり推進員を複数配置している市民センター数 129市民センター			(新たな計画に基づき見直し予定)		
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標	
	「地域でGO!GO!健康づくり」の実施または健康づくり推進員を複数配置している市民センター数				計画	129 市民センター	129 市民センター	年度 平成24年度
	市民主体の健康づくりを拡充していくために、「地域でGO!GO!健康づくり」を推進するとともに、各市民センターに健康づくり推進員を複数名配置することを目指します。				実績	122 市民センター	市民センター	内容 129 市民センター
					達成度	94.6 %	%	
					計画			年度
					実績			内容
				達成度				
コスト					事業費	14,221 千円	17,019 千円	
					うち一般財源	14,221 千円	17,019 千円	

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	「地域でGO!GO!健康づくり」を新たに10校区で展開し、85校区に広げました。また、健康づくり推進員の養成講座を実施し、健康づくり推進員が666人に増加、各区で健康づくり活動を9,068件実施し、延べ275,570人の参加がありました。
------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	市民自らが地域の健康課題に取り組んでいくために、各ライフステージに目を向けて課題の抽出、目標の設定、計画・実施評価を繰り返しています。生活の基盤である地域で、乳幼児期や小学生期にある子ども、その親世代に向けて、実情に合わせた様々な取り組みが行われている本事業は、施策の実現に有効性があると考えます。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い	「地域でGO!GO!健康づくり」は、市民自らが地域の状況にあった健康づくりの取り組みを考えるものであり、運営費の一部に補助金を交付し、効果的な活動を推進しています。また、健康づくり推進員の養成講座の実施により、ボランティアで地域の健康づくりに取り組む人材を養成しており、効率良く事業を展開させています。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2: やや低い 1: 低い	事業開始から7年目となり、子どもやその親世代にも地域性を活かした取り組みを展開することができるようになっています。今後も継続して実施していくことで、効果的な事業展開が期待できると考えます。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	市民主体の健康づくりの基盤となる事業であり、市民主体の健康づくりを全市的に展開していくために、市が積極的に支援する必要があると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	本事業は、実際に市民が主体となり健康づくり活動を展開していくものであり、施策の実現のために重要な事業と考えます。今後もまちづくり協議会などの地域団体と医師会、歯科医師会、薬剤師会などの関係団体との連携をはかり、全市的な展開に向けて取り組みをすすめる必要があります。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	事業のPRを行い、まちづくり協議会などの地域団体と医師会、歯科医師会、薬剤師会などの関係団体との連携をはかり、全市的な展開に向けて取り組みをすすめます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	乳幼児等医療費支給制度
-----	-------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	乳幼児等の健康の保持と健やかな育成を図るため、乳幼児等の保険診療による医療費の自己負担額を助成します。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安の対応

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	適正な医療費の支給				
	これまでの進捗状況・今後の予定	適正な医療費の支給					
【実施状況】	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）		平成22年度		平成23年度		目標
	乳幼児医療の受給者数(小学生の入院の償還払いを除く。)		計画	53,411 人	53,477 人	年度	
	乳幼児等医療の受給者数が増えることにより、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合は減少すると予想されるため、活動指標として掲げました。		実績	53,635 人		内容	
			達成度	100.4 %	%		
			計画			年度	
			実績			内容	
		達成度	%	%			
【コスト】			事業費	2,532,925 千円	2,530,192 千円		
			うち一般財源	1,842,101 千円	1,809,955 千円		

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	乳幼児等医療(未就学児)の受給者数は、ほぼ受給計画者通りでした。 平成22年10月より、小学生の入院医療費の助成を、小学校3年生から小学校6年生まで拡大しました。
--------	-------------------------------------	--

### 【事業の再検証】

【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	保険診療による自己負担額を助成するものであり、代替手段は考えられません。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	保険診療による自己負担額を助成するものであり、代替事業によりコストを削減する余地はありません。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	乳幼児等の生計維持者の経済的負担が増すため、医療機関への受診を抑制することになり、乳幼児等の健康の保持、健やかな育成が図れません。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	保険診療による自己負担額を助成するものであり、市以外の団体の関与は考えられません。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	今後とも、乳幼児等の健康の保持と健やかな育成を図るため、現状のまま進めることが適当です。	

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	平成23年10月より、入院医療費の助成対象を、小学生から中学生に拡大する予定です。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	特定不妊治療費助成事業
-----	-------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	不妊に悩む夫婦が、経済的理由で不妊治療を断念することがないよう、医療費が高額な特定不妊治療に要する費用の一部を助成することにより、経済的負担の軽減を図ります。また、専門の相談窓口を設置し、不妊に関する様々な相談に応じることで、心身にわたる悩みを軽減します。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安の対応

目的実現の為に実施する内容【手段】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	普及啓発の充実 講演会や交流会の開催	普及啓発の充実 講演会や交流会の開催	普及啓発の充実 講演会や交流会の開催	普及啓発の充実 講演会や交流会の開催	
これまでの進捗状況、今後の予定	助成額の拡充 情報誌の掲載、ポスター掲示 講演会や交流会の開催	普及啓発の充実 講演会や交流会の開催	普及啓発の充実 講演会や交流会の開催	普及啓発の充実 講演会や交流会の開催	普及啓発の充実 講演会や交流会の開催	普及啓発の充実 講演会や交流会の開催	
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標
	助成件数	計画			年度		
	不妊に悩む夫婦が経済的理由で不妊治療を断念することがないように、助成することが必要です。	実績	553 件		内容		
	相談件数	計画			年度		
	不妊に関する様々な相談に応じ、心身にわたる悩みを軽減することが必要です。	実績	363 件		内容		
		達成度	%	%			
コスト	事業費	89,948 千円	75,278 千円				
	うち一般財源	45,961 千円	37,641 千円				

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 公費助成額を拡充するとともに、情報誌への掲載、公共施設や交通機関等におけるポスター掲示など不妊に関する情報の普及啓発に努めました。その結果、特定不妊治療費助成の申請者や相談者数が増加しました。

【事業の再検証】				
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	不妊に悩む夫婦に対して、経済的負担や心身にわたる悩みの軽減を図っており、事業の有効性は高いです。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	4	助成内容は国の要綱に基づいて実施しています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	4	不妊治療を受ける夫婦が増えていることから、経済的負担の軽減と周囲の理解を深めるために施策として重要です。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	4	国の実施要綱において自治体が実施主体となるよう規定されています。また、不妊治療に関する理解を深めるためには、市としての関与が必要です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了	ウ	特定不妊治療を受ける夫婦が増加しており、制度の認知度は徐々に広がっていることから、今後も事業の周知を図っていきます。また、不妊に関する相談者も増加しており、相談内容も多様になっているため、相談を受ける専門職のスキルアップや不妊に悩む方の交流会等を実施し、事業を継続します。	

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	不妊に関する情報の普及啓発に努めるとともに、相談窓口の充実を図ります。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	子ども手当
-----	-------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	子ども手当を支給することにより、次代の社会を担う子どもの育ちを支援することを目的としています。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	手当支給	手当支給予定	手当支給予定	手当支給予定	
	これまでの進捗状況、今後の予定	同上	同上	同上	同上	同上	
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標
	手当の支給	計画	16,233,000 千円	13,248,000 千円	年度		
	手当の支給により、子育て家庭を支援します。	実績	15,976,532 千円	千円	内容		
		達成度	98.4 %	%			
		計画	%	%	年度		
		実績	%	%	内容		
	達成度	%	%				
コスト	事業費	15,976,532 千円	13,248,000 千円				
	うち一般財源	1,760,481 千円	1,479,200 千円				

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	適切・確実に手当の支給を実施しています。 H22年度実績(平成23年3月末現在) 延人数 1,288,964人、支給額合計 15,976,532千円
------	-------------------------------------	--

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	子育てにかかる経済的な負担を軽減し、経済的な不安を和らげます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	法定受託事務で支給要件・手当額が一律に定められているため、評価に馴染まないと考えています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	子育てにかかる経済的な負担に躊躇して、出生率等に影響する恐れがあります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	法定受託事務のため、市の関与は不可欠です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	ウ	法定受託事務のため、引き続き法令に基づき適切な手当での支給を行います。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	市民生活に混乱のないようにすることを第一義に、法に従って手当支給を継続します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	母子寡婦福祉資金貸付金制度の利用促進
-----	--------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	母子家庭の子どもが高等教育を受ける機会の保障や厳しい雇用情勢の中での母親の就労を確保し、母子家庭の経済的自立の促進および生活意欲の向上を図るため、その利用を促進します。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安の対応	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	母子寡婦福祉資金の貸付	事業の継続実施					
		これまでの進捗状況、今後の予定	母子寡婦福祉資金の貸付件数:935件	母子寡婦福祉資金の貸付					
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標		
	貸付件数			計画			年度		
	母子家庭等の生活の安定と向上を図るため、貸付件数の増加に努めます。			実績	935 件		内容		
				達成度	%	%			
				計画			年度		
				実績			内容		
			達成度	%	%				
コスト			事業費	407,890 千円	726,200 千円				
			うち一般財源	千円	千円				

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	貸付事業の実施により、母子家庭等の経済的自立の助成と生活意欲の助長を図り、あわせてその児童の福祉を推進しました。
------	-------------------------------------	--

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	母子家庭等の子どもの就学、母親の資格取得等を助け、生活の向上、安定に寄与しました。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		3	母子及び寡婦福祉法に定められた事業であり、金額等は法で規定されています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	母子及び寡婦福祉法に定められた事業であり、母子家庭等に与える影響が大きいと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	母子及び寡婦福祉法により、自治体が行うことと規定されています。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	母子家庭等の生活の安定と向上を図るため、事業の継続が必要です。	

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	母子家庭等の生活の安定と向上を図るため、事業を継続します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	-------------------------------	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
----	----	--------	----	----	----	----

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	ひとり親家庭等医療費支給制度
-----	----------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。 母子、父子などひとり親家庭等の健康の向上と福祉の増進を図るため、保険診療による医療費の自己負担額を助成します。
その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安への対応</b>

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	適正な医療費の支給						
		これまでの進捗状況、今後の予定	適正な医療費の支給						
【実施状況】	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
	ひとり親家庭等医療の受給者数	計画	34,739	人	30,564	人	年度		
	ひとり親家庭等医療の受給者数が増えることにより、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合は減少すると予想されるため、活動指標として掲げました。	実績	32,408	人				内容	
		達成度	93.3	%	%				
		計画						年度	
		実績						内容	
	達成度	%	%						
【コスト】	事業費	1,474,833	千円	1,161,341	千円				
	うち一般財源	851,698	千円	693,216	千円				

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	ほぼ計画受給者数通りであり、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合の減少につながったと考えます。
-------------------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】			
【評価】	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	保険診療による自己負担額を助成するものであり、代替手段は考えられません。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4 3: やや高い	保険診療による自己負担額を助成するものであり、代替事業によりコストを削減する余地はありません。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4 2: やや低い	ひとり親家庭等の経済的負担が増すため、医療機関への受診を抑制することになり、ひとり親家庭等の健康の保持、健やかな育成が図れません。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4 1: 低い	保険診療による自己負担額を助成するものであり、市以外の団体の関与は考えられません。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	今後とも、母子、父子などひとり親家庭等の健康の保持と健やかな育成を図るため、現状のまま進めることが適当です。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	今後も、ひとり親家庭等の健康の向上と福祉の増進を図るため、現状のまま進めることが適当です。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	児童扶養手当
-----	--------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	父又は母と生計を同じくしていない児童が育成される家庭の生活の安定と自立の促進に寄与するため、当該児童について児童扶養手当を支給し、もって児童の福祉の増進を図ることを目的としています。 平成22年8月1日より、支給対象が拡充され、父子家庭の父も対象となりました。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安への対応</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	・定例支払月 4月・8月・12月(年3回) ・随時支払月 毎月	・定例支払月 4月・8月・12月(年3回) ・随時支払月 毎月 ・8月から父子にも対象拡大	・定例支払月 4月・8月・12月(年3回) ・随時支払月 毎月	・定例支払月 4月・8月・12月(年3回) ・随時支払月 毎月		・定例支払月 4月・8月・12月(年3回) ・随時支払月 毎月
	これまでの進捗状況、今後の予定	同上	同上	同上	同上	同上		
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標	
	手当の支給対象者に対し、確実に支給する		計画	実績	手当を確実に支給する	手当を確実に支給する	年度	
	申請を受理し、支給要件の審査をした上で認定を行い、その者に対し手当を支給します		達成度	達成度	%	%	内容	
			計画	実績			年度	
			達成度	達成度	%	%	内容	
			事業費	事業費	5,383,944 千円	5,722,595 千円		
コスト			うち一般財源	うち一般財源	3,586,485 千円	3,821,155 千円		

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	適切な審査・認定を行い、確実に手当の支給を行っています。(進捗率100%です。) 平成22年度支給実績(平成23年3月末現在) ・延支給件数 34,664件、・支給額合計 5,383,943,790円
------	-------------------------------------	--

### 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	ひとり親家庭等の生活の安定と自立の促進に十分寄与しています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	法定受託事務(支給要件・手当額等が全国一律に定められているため、評価に馴染まないと考えています。)
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	ひとり親家庭の生活の安定と自立の促進に甚大な影響を及ぼすことが考えられます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。		4	法定受託事務のため、市の関与は不可欠です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	ウ	法定受託事務であり、引き続き法令に基づき、適切な手当の支給を行います。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	適切な審査・認定と確実な手当支給を行います。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	------------------------	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	母子公費負担医療費助成および医療給付
-----	--------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	妊娠中の疾病や未熟児・心身障害児の重症化を抑制するとともに、保護者の医療費負担の軽減などを図るため、医療の給付や医療費の公費負担を行います。また、保護者の心身の負担軽減や療育生活の充実を図るため、家庭訪問等による支援を実施します。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安の対応	

目的実現の為に実施する内容【手段】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	事業の継続実施	事業の継続実施	事業の継続実施	事業の継続実施		事業の継続実施
		これまでの進捗状況、今後の予定	事業の継続実施	事業の継続実施	事業の継続実施	事業の継続実施		事業の継続実施
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）		平成22年度	平成23年度	目標			
	小児慢性特定疾患の給付実人数	計画			年度			
	障害の重症化を抑制するとともに、経済的負担を軽減するため、公費助成は必要です。	実績	657 人		内容			
		達成度	%	%				
	自立支援医療(育成医療)の給付実人数	計画			年度			
	疾病の重症化を抑制するとともに、経済的負担を軽減するため、公費助成は必要です。	実績	204 人		内容			
		達成度	%	%				
	未熟児養育医療の給付実人数	計画			年度			
	未熟児とともに、経済的負担を軽減するため、公費助成は必要です。	実績	234 人		内容			
		達成度	%	%				
コスト	事業費	308,715 千円	294,001 千円					
	うち一般財源	176,443 千円	153,628 千円					

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 平成21年度は、未熟児養育医療220件、育成医療221件、小児慢性特定疾患643件の給付を行っています。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	妊娠中の疾病や未熟児・心身障害児の重症化を抑制するとともに、保護者の医療費負担の軽減などを図るために、医療費の公費助成は重要です。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	国の実施要綱に基づき実施しているため、費用の削減は困難です。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	母子保健法及び児童福祉法に基づき実施している事業であり、医療費負担の軽減として重要です。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	母子保健法及び児童福祉法に自治体が行うよう規定されています。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	妊娠中の疾病や未熟児・心身障害児の重症化を抑制するとともに、保護者の医療費負担の軽減を図るために、事業の継続は必要です。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	今後も事業を継続します。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局・子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	新生児聴覚検査事業
-----	-----------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	聴覚の障害を早期に発見し療育を開始することで、コミュニケーション形成や言語発達に効果が得られるため、新生児に対して行う聴覚検査費用の一部を助成します。また、検査で聴覚障害が発見された場合には、早期療育に取り組むための支援を行います。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安の対応</b>

【目的実現の為に実施する手段】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	事業の継続実施	事業の継続実施	事業の継続実施	事業の継続実施	
	これまでの進捗状況、今後の予定	事業の継続実施	事業の継続実施	事業の継続実施	事業の継続実施	事業の継続実施	
【実施状況】	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）		平成22年度		平成23年度		目標
	聴覚検査実施件数		計画				年度
	早期に発見することで早期療育につながることから、聴覚検査は必要です。		実績	6,771 件			内容
			達成度	%	%		
			計画				年度
			実績				内容
		達成度	%	%			
【コスト】		事業費	13,355 千円	15,463 千円			
		うち一般財源	13,355 千円	15,463 千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 平成21年度は、新生児6,848人が検査を受けており、その結果、精密検査が必要な乳児に対して、保健師等がフォローアップを行っています。

【事業の再検証】				
【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	聴覚の異常を早期に発見するための検査として重要です。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い	4	医療機関において実施しているため、コストの削減は困難です。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2: やや低い 1: 低い	4	聴覚の異常を早期に発見し早期療育につなげることで、言語発達に効果があることから、事業の実施は重要です。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	市が行うことで、関係機関と連携を図り、検査後の継続支援につながります。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了	ウ	聴覚の異常を早期に発見し支援することで、言語発達に効果があることから、今後も事業を継続します。	

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	今後も関係機関と連携を図りながら、事業を推進します。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	保育所措置費用負担金の軽減
-----	---------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	保育所措置費用負担金(保育料)は、国の示す徴収金基準額に基づいて定めることを基本としています。本市では、保護者の負担を軽減するため、市独自の軽減措置に努めます。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安の対応</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	保育所入所児童世帯の保育料負担軽減の維持					
実施状況	これまでの進捗状況、今後の予定	計画どおり負担軽減の維持(保育料の金額改定なし)	保育所入所児童世帯の保育料負担の軽減の維持	(保育料改定予定)				
	コスト	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		計画	平成22年度	平成23年度	目標	
実施状況	保育料軽減率			計画	19.7 %	19.7 %	年度	
	保育料は、国がその世帯の所得税や市民税課税額の階層区分に応じて基準額を定めています。本市においては、市民の負担をできるだけ軽くするため、国の8階層の区分を14階層に細分化して、国の基準額から全体で約20%の軽減を図っています。	実績			実績	18.5 %	%	内容
		達成度			達成度	93.9 %	%	内容
	コスト	事業費			計画			年度
実績					実績			内容
コスト	うち一般財源			達成度	%	%	内容	
		事業費	832,834 千円	907,405 千円				
		うち一般財源	832,834 千円	907,405 千円				

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 計画どおり保育料の負担軽減の維持に努め、保護者の負担を軽減しました。

【事業の再検証】				
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	市独自の保育料軽減措置により、保護者の負担を軽減しています。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	2	保護者の負担を軽減する目的で行う事業であるため、市が負担するコストを削減した場合、軽減措置が維持できなくなり、保護者負担が増加してしまいます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	保育料の軽減措置を維持することで、保護者の負担を抑えた保育料額を維持できます。	
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	国の示す徴収金基準額どおり保育料を定めた場合、保護者の家計へ与える影響が大きいと、市独自の軽減措置は必要と考えます。	
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	今後も保育所入所児童世帯の保育料負担の軽減の維持に努めます。	

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	厳しい財政状況の中、保護者の負担を軽減するため、現行の軽減措置の維持に努めます。	前年度に評価した今後の方向性



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	保健福祉局・障害福祉課
連絡先	582-2424

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	障害児福祉手当
-----	---------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	日常生活において、常時、特別な介護を必要とする20歳未満の在宅の重度の障害のある子どもに対し、その障害によって生じる特別な負担の軽減を図ることを目的として手当を支給します。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応	

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	事業の継続実施				
	これまでの進捗状況、今後の予定	支給者数586名	事業の継続実施				
【実施状況】	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）		平成22年度		平成23年度		目標
	支給者数		計画			年度	
	日常生活において、常時、特別な介護を必要とする20歳未満の在宅の重度の障害のある子どもに対し、その障害によって生じる特別な負担の軽減を図ることを目的として手当を支給します。		実績	586	名	内容	—
			達成度			年度	
			計画			内容	
			実績			年度	
			達成度			内容	
	コスト		事業費	101,079	千円	106,697	千円
		うち一般財源	25,039	千円	26,716	千円	

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	特別児童扶養手当等の支給に関する法律・施行令に基づき支給しています。
--------	-------------------------------------	------------------------------------

### 【事業の再検証】

【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	障害のある子どもの世帯の負担軽減に寄与しています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	法定給付であるため、支給要件、手当額等は全国一律に定められています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	法定給付であるため、必ず実施する必要があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。		4	法定給付であるため、市の関与は不可欠です。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	継続実施	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	継続実施	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	------	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	保健福祉局・障害福祉課
連絡先	582-2424

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	特別児童扶養手当
-----	----------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。 身体障害・知的障害・精神障害の状態(重度・中度)にある20歳未満の障害のある児童を扶養している父母等に手当を支給します。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安への対応</b>

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	事業の継続実施						→
		これまでの進捗状況、今後の予定	支給者数1,311名	事業の継続実施					→
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標		
	支給者数				計画			年度	
	身体障害・知的障害・精神障害の状態(重度・中度)にある20歳未満の障害のある児童を扶養している父母等に手当を支給します。				実績	1,311 名		内容	-
					達成度			年度	
					計画			年度	
					実績			内容	
				達成度			年度		
				達成度			内容		
コスト					事業費	119 千円	348 千円		
					うち一般財源	千円	千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 特別児童扶養手当等の支給に関する法律・施行令に基づき支給しています。

【事業の再検証】			
評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	障害のある子どもの世帯の負担軽減に寄与しています。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	法定給付であるため、支給要件、手当額等は全国一律に定められています。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	法定給付であるため、必ず実施する必要があります。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	法定給付であるため、市の関与は不可欠です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。  ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	継続実施

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	継続実施	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	保健福祉局・障害福祉課
連絡先	582-2424

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	重度障害者医療費支給制度
-----	--------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	重度の障害のある子どもの健康の保持及び福祉の増進を図るため、保険診療による医療費の自己負担額を助成します。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	事業の継続実施 受給予定者数 23,224人					
	これまでの進捗状況・今後の予定	H23年3月現在 23,054人	事業の継続実施					
【実施状況】	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標	
	重度障害者医療の受給者数				計画	23,224 人	-	年度
	重度障害者医療の受給者数が増えることにより、重度の障害のある子どもを育てる家庭で、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合は減少すると予想されるため、活動指標として掲げました。				実績	23,054 人		内容
					達成度	99.3 %		年度
					計画			内容
					実績			年度
【コスト】					事業費	3,769,508 千円	3,861,291 千円	
					うち一般財源	2,854,970 千円	2,917,455 千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 重度障害者医療の受給者数は、ほぼ計画通りでした。

【事業の再検証】				
【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	保険診療による自己負担額を助成するものであり、代替手段は考えられません。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	4	保険診療による自己負担額を助成するものであり、代替事業によりコストを削減する余地はありません。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	重度の障害のある子どもを育てる家庭の経済的負担が増すため、医療機関への受診を抑制することになり、重度の障害のある子どもの健康の保持、健やかな育成が図れません。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	保険診療による自己負担額を助成するものであり、市以外の団体の関与は考えられません。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了	ウ	今後とも、重度の障害のある子どもの健康の保持と健やかな育成を図るため、現状のまま進めることが適当です。	

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	受給資格者等の申請を促進するため、制度の啓発等に努めます。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	保健福祉局・障害福祉課
連絡先	582-2424

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	重度障害者タクシー乗車運賃助成事業
-----	-------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	在宅の重度障害児(者)の社会参加の促進を図るため、タクシーの乗車運賃の一部を助成し、重度障害児(者)の外出を支援します。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安への対応

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定			重度障害のある子どもたちの社会参加を促進			
実施状況	これまでの進捗状況・今後の予定	年間助成者数 4,588人		重度障害のある子どもたちの社会参加を促進				
	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	重度障害者タクシー乗車運賃助成者数		計画	平成22年度 4,600 人	平成23年度 4,600 人	目標 年度 平成26年度 内容 助成者数 5,000人	
コスト	「助成者数」の増加が、利用者の活動・外出を支える満足度の高いサービスであることの判断基準となるため、成果指標として掲げました。	達成度	99.7 %	%			内容	
		計画					年度	
		実績						内容
		達成度						内容
コスト	事業費	81,544 千円	84,607 千円					
	うち一般財源	81,544 千円	84,607 千円					

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 概ね当初計画どおりの利用者となり、在宅の重度障害児(者)の活動・外出を支える人気の高いサービスとなっています。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	当事業は、公共交通機関の利用が困難な重度障害児(者)の安全で容易な社会参加の移動を確保するものであり、施策の目標を実現する有効性が高いです。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	当事業の目的を理解し、月4枚の利用を順守していただけるよう、配付時の周知に努めるとともに、利用券本体に利用月を印刷し、適正利用の周知徹底を図っています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	重度障害児(者)の移動、外出に関わることであり、期間を限定することはできないため、今後も継続して実施していく必要があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。	4	助成について、他の実施主体は考えられません。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	今後も制度的確な広報を行うとともに、必要が生じた人に適切に対応していきます。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	市政だよりやホームページへの掲載により助成制度の周知に努めます。 今後も制度的確な広報を行うとともに、必要が生じた人に適切に対応していきます。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	保健福祉局/保険年金課
連絡先	582-2415

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	北九州市国民健康保険出産育児一時金
-----	-------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	他の健康保険と共通 出産育児に係る経済的負担を軽減するため、出産時に世帯主に対して、出産育児一時金を支給します。また、平成21年10月からは被保険者への負担軽減をより一層進めるため、国民健康保険から医療機関等に出産に係る費用を直接支払う制度(直接支払制度)を実施しています。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安の対応</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	他の健康保険と共通 国民健康保険の被保険者が出産した場合、世帯主に対して、出産育児一時金を支給する制度を実施				
これまでの進捗状況、今後の予定		他の健康保険と共通 国民健康保険の被保険者が出産した場合、世帯主に対して、出産育児一時金を支給する制度を実施					
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)			平成22年度	平成23年度	目標	
	出産育児一時金の支給件数		計画			年度	
	上記指標により、国民健康保険の被保険者が出産した場合の世帯主に対する出産育児一時金の支給状況が把握できるため、指標として設定	実績	1,360	件		内容	
		達成度					
		計画				年度	
		実績				内容	
	達成度						
コスト	事業費		千円		千円		
	うち一般財源		千円		千円		

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	出産した被保険者がいる世帯の世帯主に対して出産育児一時金を支給しました。直接支払制度を利用している場合は医療機関等に支払いを行いました。また、差額支給がある場合は世帯主に届出勧奨を行いました。
------	-------------------------------------	--

### 【事業の再検証】

評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	国民健康保険の被保険者が出産した世帯から申請が出されており、出産に係る費用の負担軽減に大きな効果があったと考えています。	
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	4	他の健康保険も同じように実施している制度であり、適切なコスト設定であると考えています。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	出産に係る費用の軽減のため、他の健康保険も実施している事業であり、本市国民健康保険だけが当事業を実施しない場合、他の健康保険加入者との不均衡が広がり、多大な影響を及ぼすと考えます。	
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	本市国民健康保険被保険者への給付制度であるため、実施主体は市が適切です。	
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	他の健康保険と共通 事業の進捗は順調です。今後とも、安心して生み育てることができる環境づくりの実現のため、本事業の継続が適当です。	

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	国保のてびきや市ホームページを通じて出産育児一時金のPR活動に努め、幅広く周知を図ります。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	保健福祉局・保険年金課
連絡先	582-2415

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	国民健康保険の減免制度
-----	-------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	子育て支援の観点から、2人以上の子等を扶養する世帯の国民健康保険料の一部を減免する制度です。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	子育ての悩みや不安の対応

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	前年の世帯の所得が250万円以下で、18歳未満の2人以上の子等を扶養する世帯において、国民健康保険料のうち所得に対する部分(所得割額)を減額する制度を実施。				
	これまでの進捗状況、今後の予定	申請書送付件数11,635件(平成23年3月末現在)	前年の世帯の所得が250万円以下で、18歳未満の2人以上の子等を扶養する世帯において、国民健康保険料のうち所得に対する部分(所得割額)を減額する制度を実施。				
【実施状況】	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		平成22年度		平成23年度		目標
	多子減免該当者への申請書(往復はがき)の送付と減免申請の促進(送付件数)	計画			年度		
	子育て支援の観点から、子育てをしている一定の条件を満たす世帯を抽出し、世帯主の申請に基づき所得割額の一部を減免するため、申請書を送付し減免申請の促進を図るものです。	実績	11,635	件	内容		
		達成度					
		計画			年度		
		実績			内容		
	達成度						
【コスト】	事業費	千円	千円				
	うち一般財源	千円	千円				

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	多子減免対象と思われる世帯については、6月に申請書(往復はがき)を一括送付し、新規加入世帯や所得更正・出生等により対象となった世帯へは例月処理で申請書(往復はがき)を送付し、減免申請の促進を図りました。
--------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

【評価】	【有効性】 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	多くの世帯から減免申請が出されており、子育て支援の一助に大きな効果があったと考えられます。
	【経済性・効率性】 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	4 国保新システムの稼働で、経済的・効率的な運営を行っています。
	【適時性】 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4 不況等の影響もあり、国民健康保険料の支払いに負担を感じている世帯が増加している現状で、減免制度に期待する部分も多いと考えられ、減免制度がなければ徴収率にも影響が大きいと考えられます。
	【市の関与の必要性】 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	4 本市国民健康保険料の減免制度のため、実施主体は市が適切です。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	事業の進捗は順調です。今後とも、子育て支援の観点から、多子減免の制度の維持を目指します。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	市政だよりやパンフレットなどを通じて多子減免制度のPR活動に努め、幅広く周知を図ります。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	教育委員会・企画課
連絡先	582-2357

政策分野	安心して生み育てることができる環境づくり
------	----------------------

事業名	私立幼稚園就園奨励事業
-----	-------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	平成22年度の公立保育園の入園料・保育料は年間97,950円に対し、私立幼稚園の平均入園料・保育料は年間293,400円とその格差は、195,450円となっています。公・私立幼稚園間の保護者負担の格差是正を図るとともに、保護者の経済的負担の軽減を図るために、家庭の所得状況に応じて就園奨励費補助を行うものです。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>子育ての悩みや不安の対応</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	保護者に対する補助事業の実施					新たな計画に基づき実施する予定
		これまでの進捗状況・今後の予定	保護者に対する補助事業の実施					新たな計画に基づき実施する予定
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）		平成22年度		平成23年度		目標	
	補助対象人数	計画	-	-	年度			
	子どもが私立幼稚園に通う世帯への補助であることから補助対象人員を指標としました。	実績	14,036 人		内容			
		達成度	- %	- %				
		計画			年度			
		実績			内容			
	達成度	- %	- %					
コスト	事業費	1,274,941 千円	1,376,901 千円					
	うち一般財源	1,000,303 千円	944,125 千円					

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 ・就園奨励費補助制度は、国の補助を受けて各市町村が実施するものであり、私立幼稚園がある市町村では、ほとんどすべてのところで実施されています。保護者の経済的負担の軽減と公立幼稚園の格差是正のためにも、今後とも事業を継続していきます。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	毎年、国の補助単価の改定にあわせて、補助額等の引き上げを行うことにより、保護者への経済的負担の軽減や幼児教育振興への成果が得られます。また、平成20年度から対象園児を翌年3月31日入園児までに拡大したことにより、満3歳児の入園の促進につながっています。市内の幼稚園児の97%が私立幼稚園に在園している現状から、幼児教育の充実に寄与しています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	補助金を各世帯に支給するのではなく、各幼稚園の設置者を介して申請及び支給することにより効率性を高めています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	保護者の経済的負担の軽減と公私立幼稚園の格差是正のためにも、今後とも必要です。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	就園奨励費補助補助制度は、国の補助を受けて各市町村が実施するものであり、私立幼稚園がある市町村では、ほとんどすべてのところで実施されています。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	[方向性] 家庭の所得状況に応じて保護者の経済的負担の軽減を図るとともに、公・私立幼稚園間の保護者負担の格差是正が図られています。今後とも、国の制度改革、補助単価改定等にあわせて、保護者負担の軽減を図っていく必要があります。 [問題点] 事業費のうち国の3分の1以内で残りは市の負担です。毎年、国によって保護者への補助単価が改定(増額)されるので、事業費が増え、市の負担が増える仕組みとなっています。また、3分の1以内という国の補助率も年々下がっており、それによっても市の負担が増えています。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	国の制度改革、補助単価改定等にあわせて、保護者負担の軽減を図ります。	前年度に評価した今後の方向性